

修猷館同窓会誌

2022

菁莪

令和4年 January/Seiga



表紙解説「第74回 修猷大運動会」応援コンテスト

緊急事態宣言下のなか「全員参加の学校行事としてはできない」という悔しい思いがあった。

生徒たちは自分達にできることに真剣に向き合い可能性に挑戦しそして精一杯尽くし、心をつにし、喜びと感動をもたらす未来への力へと各ブロックはスタンドのパネルを背に「運動会の伝統」の伝承を行った。

運動会のスローガン「照破」

智慧の光で無明の闇を照らし破ること。厳しい状況を修猷生の智慧で打破し、この運動会をやりきったという経験がこの先の自分の道を照らしてくれるようにという思いを込めた。(修猷館高校 第74回修猷大運動会パンフレットより)

修猷館同窓会誌

菁 莪



リンク先 URL

(<https://shuyukan-dosokai.com/seiga/>)

目次

御挨拶	津田純嗣	1
御挨拶	谷川浩道	2
副会長就任にあたって	岡本圭吾	4
第三十三代館長挨拶		
追悼	久保田勇夫	6
川崎隆生氏を悼む	上野道雄	8
小川前知事の追悼		
随想「スポーツの力」	金岡恒治	11
東京2020	森田博志	14
東京オリンピック・パラリンピック2題	井手隼斗	16
大人の甲子園	瀬戸勇次郎	19
パラリンピックを盛り上げるために		
復興への歩み		
東日本大震災から10年	出納克彦	23
東北の人たちの心をいかに受けとめるか	小柳有美	26
東日本大震災からの十年を振り返って		
投稿	川原章	30
館歌歌詞の変更を考える		
キャリアセミナー		
New York からの Love Letter	西尾美和	33
資料館案内		
花盛り同窓会		
同窓会総会報告 WEB同窓会総会 開催報告	富安孝成	41
「あ、修猷感（これが私の生きる猷）」		

東京修猷会総会報告	岡武志	44
近畿修猷会総会報告	池田渉	46
支部だより		
近畿修猷会	大竹恵	49
中京修猷会	川野靖史	49
中国四国修猷会	河野浩	50
宮崎修猷会	光田靖	50
沖縄修猷会	山崎秀雄	51
東北修猷会	出納克彦	52
周年行事		
絶滅危倶種の「三一会ゴルフ仲間」	高橋俊之	54
学年一口連絡アンテナ		
学校報告		
同窓会の歩み		
役員会・学年幹事会報告		
令和2年度 同窓会収支決算書		62
令和3年度 同窓会収支予算書		66
令和2年度 同窓会会費入金状況		67
修猷館同窓会会則		68
修猷館同窓会役員名簿・各支部会長名簿		70

御挨拶



同窓会会長
津 田 純 嗣

(昭和44年卒)

令和3年4月に同窓会会長に就任いたしましたS44卒の津田です。コロナ禍にあつて役員以外の方々は、未だに対面でのご挨拶が出来ていないことが残念です。総会も支部総会も軒並みに中止となっておりますが、5月には幹事学年の平成4年卒朋猷会の取組みで初めてのWEB総会が開催されました。6月には東京修猷会総会が平成6年卒六星会の皆さんの手で、同じくWEB開催されました。近畿修猷会は11月にリアルとWEBのハイブリッド支部総会を開きました。沖縄支部も11月に支部懇親会をWEBで開かれたとのことです。緊急事態宣言の最中に準備を進め実行された関係者の皆様のご努力に敬意を表します。

私くしは東京、大阪、シカゴと学校と勤務先の関係で移動し、高校卒業以来30年強、福岡から離れておりました。ようやく転勤で北九州に戻りましてから18年となります。北九州からの同窓会会長は修猷にオリンピック旗を寄贈された安川第五郎先輩がおられ、私は二人目となります。

安川第五郎先輩はS32年からS49年まで同窓会会長を務められましたが、S39年の東京オリンピックでは組織委員長を務められました。当時、混乱していた組織委員会をまとめ上げて開催にこぎつけ、大雨の予報を覆して晴天となった開会式の喜びを「至誠、天に通ず」と回想されています。至誠は真心の意味です。修猷館生らしい言葉の選択です。大会期間中、国立競技場のグラウンドのポールに掲げられていたオリンピック旗を母校に寄贈されたのも修猷時代の気持ちと通じるものをオリンピックに感じられたからではと拝察します。

昨年は残念ながら修猷の運動会は中止となりましたが、同窓会もサポートさせてもらったスタンドを立てての応援合戦など歴史と伝統を下級生に繋ぐ活動はできたと思っております。今年には在校生が晴れ晴れしく運動会でオリンピック旗を仰ぎ見る光景を見たいものです。

尚、同窓会本部の役員ですが、副会長は引続きの役員となるS47卒の第三十九代天満宮宮司の西高辻さんと、新任として同じくS47卒、西日本シティ銀行会長の谷川さんに務めていただきます。常任幹事長は引き続きS46卒の大賀さんです。事務局長はS50卒の田中さんに代わりS61卒中本さんです。そして田中さんには石田さんから監事の役目を引き継いでいただくこととなりました。

昨春、館長となりました岡本先生はS56卒で船津館長以来22年ぶりに同窓生の館長です。先生の修猷館での教員・教頭・副校長としての勤務も20年を超えます。ラグビー部出身の熱き漢です。岡本館長は一時期、福岡高校の教頭も務められましたが、福岡の同窓会会長の「めんたいのふくや」の川原会長は、修猷出身らしい、熱血漢の素晴らしい先生だったとの印象を話していました。

同窓会本部と致しましては、「世のため人のため」の館歌の精神と、「不羈独立」、「自由闊達」、「質朴剛健」の伝統の下で生徒たちを育てる新館長をサポートし、育ちの場・修猷館を発展させるべく、同窓会活動を進めさせていただきます。ご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

副会長就任にあたって



谷川 浩 道

(昭和47年卒)

このたび同窓会の副会長を仰せつかった昭和47年卒の谷川です。卒業して半世紀が経ちました。私が高校生活を過ごした昭和40年代半ば、全国の学生たちの間に、「権力」や「権威」に立ち向かい、「本物の自由」を勝ち取るのだという一種の風潮がありました。特に大学では学生運動が吹き荒れ、佐世保エンタープライズ号事件、東大安田講堂事件などを経て、昭和44年には東大入試が中止されるまでに至りました。

昭和45年には作家の三島由紀夫が自衛隊市ヶ谷駐屯地で隊員にクーデターを呼びかけ、それが不発に終わったとわかるや、割腹自殺を遂げるという事件が起きました。海外ではその頃、中国の文化大革命やベトナム戦争が進行していました。特に後者は日本でも戦争反対運動や日米安保条約の改定反対運動という形で火がつき、世の中が騒然となりました。

昭和47年には連合赤軍が浅間山荘に人質を取ってたてこもり、警官隊と銃撃戦を展開するという事件が起きました。そのあまりのリアルさに、国民の多くが終日テレビに釘付けになりました。

今から考えると、当時の「熱狂」は一体、何だったのかという気もします。

当時、マルクス主義や毛沢東思想は一種の魔力・吸引力を持っていた、いわゆる「進歩的文化人」や学生が資本主義経済から社会主義経済への転換を夢見ていました。大学の経済学部や法学部の教授たちもその多くが左翼系の反体制思想の持主でした。

さて、そんな時代に、わが修猷館の様子はどんなだったでしょう？

勿論、少数の学生運動家があり、アジ演説をやって生徒諸君を「闘争」に駆り立てようとしていました。都立日比谷高校をはじめ、全国の高校でもそうした動きがありました。しかし、修猷館のほとんどの生徒たちは、そうした動きに巻き込まれることはありませんでした。皆、冷静で、盲目的に時代の「熱狂」に浮かれることはなかったのです。むしろ、運動会や文化祭などに情熱を注ぎ、学園生活を謳歌していました。

思い出に残るのは、創立記念日（5月30日）に修猷OBがしてくれた講話です。昔のことで記憶がはつきりしませんが、確か昭和44年には安川第五郎同窓会長（明治39年卒。安川電機社長、九電会長、福岡商工会議所会頭、九州経済連合会会長、昭和39年東京オリンピック組織委員会会長等を歴任）が、45年には高木健太郎名古屋大学医学部教授（昭和2年卒。生理学の世界的権威。後に参議院議員）が、46年には緒方道彦九州大学医学部教授（同18年卒。後述の緒方竹虎の甥）が修猷館時代の思い出を語るとともに、それぞれの専門分野の興味深い話を聞かせてくれました。特

に安川会長の中野正剛（明治38年卒。朝日新聞記者を経て衆議院議員。東条英機首相と対決し、割腹自殺）や緒方竹虎（同39年卒。朝日新聞副社長・主筆を経て衆議院議員。自由党総裁。首相就任が確実視されていたが、直前に急逝）といった大物政治家に関する話は、同氏と同じ時期に修猷館で学んだ同僚に関するものだっただけに、実に印象的でした。私たち修猷生はこれらの先輩をはじめ、数多くの先輩の警咳に接することによって修猷館の質実剛健と自主自立の伝統的風風を身につけ、物事を自らの頭で考えることの大切さを教えられました。

私は現在、経済界に身を置き、数多くの方々とお付き合いをしています。その中でも修猷館の先輩や同僚には共通の特徴、すなわち背筋の一本通った凛とした生き方があるような気がします。決して曲がったことをせず、人間として信頼できる、そして周囲の情勢に流されずに自らの頭で決断する、それが修猷OBの共通点です。

若い修猷OBや現役修猷生にもそうした精神・風風は受け継がれているのでしょうか？街で見かける六光星の制服姿、時折耳にする修猷生の声などから察する限り、修猷精神は今日もなおしっかりと受け継がれているように感じられます。

お互いに、生まれ育った時代環境は異にしても、若き修猷OBや現役修猷生たちには、先輩たちが守り育ててきた修猷館の良き伝統を自らも受け継ぎ、新たな歴史を創っていくのだという気概を持って頑張ってほしいと思います。以上、私の希望を述べ、皆様への挨拶に代えさせていただきます。



第三十三代館長挨拶



岡 本 圭 吾

(昭和56年卒)

修猷生となるために「校風・文化にはぐくまれ」

同窓生の方によく尋ねられます「今の修猷生は前と比べてどうですか?」と。「本質的には一緒です。表現の仕方は多少違ってきましたが、熱く燃えるし、やるときはやる。多様性を求められる時代に彼らなりにうまく対応しています。もしかしたら、選択肢が少ない分、悩まずに済んだ私たちより、ある意味たくましいかもしれません。」などと実感と願望を交えてお答えしている気がします。このように考える私は、修猷で学び・遊び・ラグビーで鍛われ昭和56年に卒業しました。教員として21年間修猷で「かつこいい人」をつくるという強い思いを持って生徒とともに学びました。その後、修猷の教頭・副校長を経験し、今回、館長として恩返しできることになりました。

話を戻します。先ほどのお尋ねを、日々熱心に生徒とふれあう先生方にも伺ってみました。多くの先生が「良くも悪くも、SNSの世代で周りの目が…」と前置きをされた上で「まじめ、やんちゃがいけない、こだわりが少ない、自分を出さない、お互

いに優しい、多才すぎる、疲れている、教員の言うことを聞く・信じる・何でも聞いてくる・戦いを求めてこない」など。

私は、これらの言葉は日々のジレンマから出たもので、修猷生にはもともとこうあってほしいという強い思いの裏返しであると思います。先生方の本意は「ちよつと横柄で勘違いした生徒、先生を困らせる生徒、生き生きとした変人たちを温かく涵養したい」と渴望しているんだと私は勝手に推測しました。

本校ではここ十数年、生徒の意識調査を実施しています(研究紀要に毎年掲載)。長い期間での修猷の経年変化と本校での三年間で本校生(個々・集団)がどのように変化(成長)したかを多面的に分析し、課題把握・解決に向けての一つの指針としています。そこには、自由の受け止め方そのものの変化、学校行事に対する志向の多様化(運動会の求心力低下)、懷疑的思考・主体性・リーダーシップの能力に自信がない生徒の増加、浪人をしたくないなど修猷教育の根幹にかかわる変化が、問題視されています。また、考察には次のような観点も示されています。「数値は、この現場に在る者ならではの手応えや肌感覚の確かさ、不確かさを自省する材料と考えたい」。「多様な生徒と個性的な先生方からなる学校であることは、生徒が成長する上で多面的多角的な刺激を受け個性が形成されていくこと、そして、学校・集団の存続発展に有利である」。「生徒のことはをしつかりと吟味してみると、そこには修猷らしさが滲んでいる。ここ数年の修猷は何か違う気がすると思つたら、過去にも同じようなことがあったりとか」。修猷のありようを考える上で、

示唆に富む研究です。では、三年間の修猷生活で生徒はどのようにはぐくまれ、たくましく成長していくのでしょうか。

今年の夏、修猷の一大事、大運動会はどうなった？

緊急事態宣言下、授業内容は制限、部活動は完全禁止、そして修猷の熱い夏は当たり前でなくなりました。生徒が思い描いていた修猷大運動会は実施できませんでした。7ピラも同様です。3年生の悔しさを言い表すことはできません。しかし、彼らはたくましくつたです。苦悩し、決断し、伝承に向け覚悟を決めました。最終的には、学校行事として全員での運動会は実施できず、ブロックごとに伝承会を行いました。スタンドにバックパネルを取り付け、声が出せないパネル操作のみの応コン、女子ダンス、男子のタンブリングは集団演技に、そしてエールが実施できました。3年生は衝突しながらも最後まで『挑み』つづけました。そこには修猷生同士の絆という大きな支えがありました。そして見事に彼らの大運動会（伝承）を成し遂げました。1年生も感動し夢を持つことができました。この全ての過程が修猷大運動会です。このことは修猷の校風・文化にはぐくまれた3年生だからこそできたことだと確信しています。

校風・文化にはぐくまれ

「世のため人のため」の精神のもと、修猷を伝え、修猷が伝える「修猷文化」が受け継がれています。語りの文化、自治・自由、変人に寛容、失敗から学ぶなど、いずれも修猷の学びの本質を表したことであり、不羈独立、質朴剛健、自由闊達な「校風」を形づくっています。子供たちは、修猷独特の雰囲気・環

境の中で楽しく学校生活を送り、多様性に富んだこの修猷文化を無意識のうちに学んでいきます。そこには、仲間、館友、先生との貴重な出会いもあり、そのふれあいを通して多くの刺激を受け、たくましく成長していきます。そして、修猷生となっていくと考えられます。

今、館長として使命を果たして

最後に、私は、何が正しく、何が正解かはつきりしない時代だからこそ、この修猷文化の一つ「良い加減」の文化が救世主になると考えます。今の修猷、今の修猷生、先生、もう少し「良い加減で、よからうもん！」です。「人のすることだから、完璧であるはずがない」というおおらかさと、「もつともつ」といものを、と理想を追求したい。」と願う強いこだわりを併せ持った「良い加減の修猷」であってほしい。その結果、修猷という学び（修行）の場は、現在の社会が失っている余裕・寛容・勇気・自信……といったものにあふれた元気な場になってくはずでしょう。修猷は、本当に必要であれば、何らかの方法で、何かができます。無理という発想をなるべく払拭し、良い加減の勇気を持つて挑んでほしいと願っています。同窓生をはじめ修猷にかかわる全ての方々の力をお借りして、この修猷の校風・文化が最大限に活かされるとともに、実社会の本物の刺激を体感できる雰囲気・環境づくりに尽力してまいります。修猷の高校生活が一生の糧となり、それが修猷愛・母校愛へとつながっていくために！

館友の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

追悼

川崎隆生氏を悼む

同窓会相談役

久保田 勇 夫

(昭和36年卒)

令和三年（二〇二一年）四月十九日、修猷館同窓会の会長であつた川崎隆生さんが逝去された。突然のことであり、日頃から健康そのものであつた御当人を良く知る者として信じ難いことであつた。心から御冥福をお祈りしたい。

私が川崎さんと最初に顔を合わせたのは、多分、西日本新聞社の東京支社にご勤務の頃だつたと思う。ご本人が経済畑であつたこと、そして何よりも同じ修猷館の先輩・後輩という関係にあることがわかつたことから、急速に親しくなつた。色々な意味で中央から疎遠な福岡・九州をもっと発展させたいという気持ち強くもつておられ、いわゆる霞が関に勤務しつつ同様の思いを抱いていた私にとっては、川崎さんは共通のゴールを目指した戦友のような存在であつた。

川崎さんが、同窓会活動に表立つて関われるようになったのは、二〇一二年に同窓会の副会長に就任されてからであろうと思う。この年の五月、世代交代があり、出光芳秀会長の後任

にそれまで副会長を務めていた私が会長に、川崎さんが新たに副会長に選任されたのである。川崎さんは既に西日本新聞社の社長に就任しておられ、極めて多忙な日々を送っておられたが、快くこれを引き受けていただいた。この副会長の時代にも積極的に同窓会活動に参加し、色々と知恵を出してもらつた。

中でも白眉は、二〇一五年の「第十三回全国藩校サミット」の際の御活躍である。詳細は二〇一六年の『菁莪』に譲るが、この年二〇〇二年から始まつた年次、持ち回りのいわゆる「藩校サミット」を黒田藩で担当して欲しいという強い要望を受けて、修猷館同窓会が実質上の主体となつて行ふこととなつた。それまで「藩校サミット」は、主催地のPR等観光促進を目的としたものが多かったが、今回は将来のわが国のあり方を見据えたものにしよう、それを修猷館に学んだわが国の超一流の人物（金子堅太郎）を中心に構成しよう（これを講談師神田紅さんに語ってもらつた）、そしてこのグローバル時代をわが国がどう生き抜くかをその道に深く関わっている館友（清田瞭さん、宮本雄二さん、津田純嗣さん）と共に探ろうということにした。このような企画を中心になつて進めてくれたのが実行委員会副委員長であつた川崎さんである。会が大成に終わり、その後の懇親会で、文字通り、壇上に溢れんばかりの館友による感激の館歌斉唱をしたことは忘れることが出来ない。

二〇一七年五月、丁度五年が経過したところで世代交代を進めようということになり、同窓会長である私、副会長であり修猷協会の理事長でもある橋田紘一さんが退任し、新たに川崎さ

んが会長に、副会長に津田純嗣さん、西高辻信良さんのお二人が選任された。新しく会長になられた川崎さんは極めて積極的に同窓会活動に取り組まれた。例えば、年一回開かれる全国十三の支部会の総会にはほとんど出席された。その修猷館に対する熱い思いは、毎年初の『菁莪』の年頭の会長挨拶からも読み取ることが出来る。会長在任中の御活躍は数多いが、中でも修猷協会の資金を活用した母校修猷館の運動場の人工芝化を実現されたのは特に記憶されるべきであろう。

色々のお考えがあつたのであろう、会長満四年目の二〇二一年での退任を決意され、同年四月の役員会において、川崎さんの退任、後任会長に津田純嗣さん等とする新体制の案が合意され、翌月の学年幹事会でそれが最終決定される予定というところで逝去されたのである。

先に示唆したように、中央から見ると、九州と東京との結びつきは他の地域のそれに比して薄いというのが、そこに住み始めてからの私の印象であつた（結局、私は十八才から六十五才まで四十五年間をそこで過ごした）。これは、これまで双方で生活した多くの人の共通の認識であつたようであり、私もわれわれの先輩達が、その思いを座談会で語っておられたものを読んだ記憶がある。このことは、一方で国の施策その他が九州・福岡の地に対して手薄になっていることを意味し、また、その原因とも結果とも思われるが、中央の正確な情報がこの地に伝えられていないことを意味するように思われた。川崎さんを含め東京に勤務された歴代の西日本新聞社の関係者の多くは、

その改善に努力された。福岡を中心とした九州出身者の有力者を集めて、九州を活性化させるにはどうすべきかの議論をさせたり、その時点の重大なテーマについて意見を交わしたりするフォーラムを作り、この成果を故郷に届けるといふ企画をされた人もおられた。

霞が関で働いていたわれわれも、例えば、一九八四年にどうみても九州の経済の中心である福岡の財務支局が廃止されそうになった時には、地元と協力してその動きを止めたり、一九九七年の福岡におけるアジア開発銀行総会の開催を手伝ったり、大きなプロジェクトで有望なものについて知恵を出す等したものである。地元の関係者は常にその努力をしておられたが、中でも、労働省の次官を務められた修猷館出身の桑原敬一市長は中央の知恵の活用のお上手で、修猷館出身の各省庁の幹部を集めては、積極的に意見の交換をされた（結局、そういう連中が集まって「霞が関修友会」を組成した。当時、大蔵省にいた私や運輸省にいた洞駿さん等十数人で始めたこの会も今や一八〇名を超えるメンバーを数えるに至り、館友の親睦の場とも、ふるさと支援の場ともなっている）。

川崎さんは、福岡にお戻りになってからも、様々な形で福岡・九州の活性化に努力された。その脈絡でもあろうか、後日御本人からいただいた手紙によれば、驚いたことに川崎さんは何人かの関係者と共に、私を「福岡に連れ戻す」作戦を練られたということであつた。川崎さんとお付き合ひは、二〇〇六年に私が西日本シティ銀行の頭取として福岡に帰ってからは、公私

ともに更に広まった。

川崎さんは、当然であろうが文章がお上手であつた。物事の機微を見抜く鋭い感性を持ち、幅広い観点から先入観なく物事を判断し得る心優しい人物であつた。その中でも特に私が気付いたのは、その「志の高さ」であり、このことが当時の西日本新聞社のトップが十五歳も若い川崎さんに社長としてその後事を託すことを決意された大きな理由だつたのではないかと考えている。

社長に就任された川崎さんは、新聞を含め、いわゆる紙媒体に対して逆風の吹く中、数々の改革を実行された。細かいことは承知していないが、各種の機構改革や関連会社の経営改善など、幅広い分野に及んだように思う。御本人はこれを誇示されることもなく、又、没後早々に出された追悼集「酔つて候」にもその性格上詳しくは触れられていないが、このことは同社の社史の中にしっかりととどめられるべきだと思う。

長く、深いお付き合いを通じて感じることは多い。道半ばではあつたが、思う存分、自己の信じる所、欲する所を正直に歩かれたように思う。そういう意味では、残念ではあるうが、悔いのない人生を送られたと言えるのではなからうか。

改めて、御冥福をお祈りし、追悼の辞としたい。(了)

小川前知事の追悼

上野道雄

(昭和43年卒)

小川洋知事お疲れ様でした。貴兄は我々同級生、同窓生の誇りでした。小川洋君の早すぎる逝去に謹んで追悼致します。

一昨年12月8日、突然、小川君から電話を頂きました。『息苦しかったので、心臓が悪いのではと病院に來た。ところが、胸に水が溜まっていると言われた』、同日夕、病院に駆けつけました。胸水からがん細胞が見つかり、分子標的薬とのマッチングが開始されました。息苦しさが増強し、九州大学に入院し、直ちに酸素投与と胸腔ドレナージでの胸水排液(胸腔に管を入れて胸水を排液して呼吸を楽にする)が始まりました。不幸なことにそのタイミングで、コロナ感染症は爆発的に拡大しました。小川知事は医学的措置を病院で受け、県庁に出勤しました。知事室で酸素投与を受け、酸素マスクを外して記者会見等の公務をこなす。息も絶え絶えの状態で知事室に戻り、酸素投与で一息をつく。小川君に阿修羅が乗り移り、コロナ感染症との闘いに臨みました。

残念なことに、分子標的薬のマッチングは叶わず、従来の抗がん剤による治療を受けることになり、長期間の入院が必要になりました。医師の説明を受け、小川君は『今回の抗がん剤で

の治療の予後。復帰の可能性はどの程度あるのか、最善の治療手段との保証はあるのか。事後、新たな分子標的薬が開発される可能性はどうか」と答えました。九州大学は小川君の難しい要求に最大限の誠意で答えました。関東の病院に詳しい資料を直ちに送り、専門医にセカンドオピニオンを依頼しました。数日後の回答をもとに密な協議を行い、抗がん剤の組み合わせが決まりました。治療に先立ち、『県民の皆さんに肺がんの全貌を打ち明けて、全力を傾けてがん闘闘復帰したい。そのため暫しの猶予を頂きたい』と、不転転の決意を公表しました。残念ながら、抗がん剤は強烈な副作用を発現させたが、胸水は減らず、猶予期間での決着は困難でした。

小川知事が自ら『県民へのお詫び、がん治療の残念な結果、何らかの貢献をしたい』ことに推敲を重ね、咳きこみながら、県民への慟哭の辞任メッセージを伝えました。胸腔ドレナージと酸素投与は中止が可能になり、3〜4月は知事の辞任、知事選挙、公邸の引越しの準備と慌ただしく日時を過ぎました。そして、突然の静寂が訪れました。病室に顔を出すのは我々だけ、知事はインターネットで肺がんの治療の検索に励まれました。気がかりなことは、知事としての責任感でガンと戦ってきた心が折れることでした。小川君の論理的な疑問にどう答えるかと思えば、病棟看護師との会話、雰囲気頼りに病室を訪れる日々でした。病状の回復はなく、抗がん剤の投与の度に、下半身の感覚障害の範囲が拡がり、歯肉炎の痛みと出血が襲い、吐き気、便秘と下痢、下血の繰り返しに発熱が加わり

ました。その苦しさは尋常のものではありませんが、治療を止めたいとは一度も口にするとはなかった。反対に、食事を全量、薬と思って流し込んでいます。リハビリテーションのため、毎日歩いている。自分にできる努力は食事とリハビリテーションで体力を付けることだ。抗がん剤投与中に食事を全量摂取する患者を見たことはありません。小川君はただものではないと心の底から思いました。振り返ってみると、悲しいが、穏やかな最後の日々でした。

医師団は抗がん剤の通常量を投与したこと、深刻な副作用が危機的水準にあることから抗がん剤の中断を提案しました。小川君からは、『副作用で命の保証ができないので抗がん剤を中止してはと言われた。論理的におかしい。副作用で死ぬのは可能性、抗がん剤中止で死ぬのは必然でないか』との電話で、病院に向かいました。小川君は怒っていました。『自分は県民の付託を受けて知事に当選したのに辞めざるを得なかった。全霊を傾けてがん闘闘して県民に答えないか』、『この思いで抗がん剤の副作用とも戦ってきた』、『ガンの治療を止めて、約束をどう果たすのか、私が存在する意義がないではないか』と苦しい思いを吐露されました。そして、『あらゆる可能性を探して欲しい、どんな小さな可能性にもかけていい』と言われました。末期がんと闘う姿勢を医師団、看護師、そして家族に貫き通しました。小川君の粘り強い姿勢がホスピス転院を拒み、『体力が回復したら、抗がん剤の投与を開始する』との結論を導き、死の直前まで継続しました。県民から付託、公との契約に全力を捧げる

漢の生き様を、現実の世界で初めて見せて頂きました。

小川君が県知事に就任後、毎年2〜3回、修猷館の同級で九州大学学長の石橋達郎君と忌憚のない食事会を開いてきました。時には、公邸でざつくばらんな相談に乗ることもありました。こんな真面目で裏表がなく、優しく公平な知事は全国を探してもいない、着実に実績も挙げて、福岡県の、修猷館の誇りと自慢していました。不器用で頑固な面もあると思っていました。発病の2か月前、小川知事のセミナーで小生がコロナ感染症に関する講演をすることになり、その打ち合わせを公邸で行いました。3時間ほど、口角泡を飛ばす激論になりました。内容には特に注文はなく、講演は正確で公平に表現するとの小川君の主張と、小生のコロナ感染症を県民に判りやすく伝えたいとの思いがぶつかりました。かねがね同級生の言『知事の話はパンフレットを読むようでおもしろくない』も脳裏をよぎり、頑張りましたが、押し切られました。翌朝、県庁職員から、知事には先生の表現を勧めていましたが、どうなりましたと聞かれ、言われた通りにしたというと、『先生でもためやったですか』と苦笑されました。

12月の発病後、肺がんの県民への告知、知事の進退、極めて重要な政治的判断が求められました。ところが、小川知事の周辺にいたのは我々二人だけでした。友達付き合いを許されているとは言え、天下の知事、ご本人が自分は頑固ものと表現される小川君です。マスコミからは毎日のように電話がかかり、周りのご意見も聞こえてきました。健康と職責との解答不能の問

題に苦しまれる小川君を前に、蛮勇を奮って、私見を述べました。意外なほど、我々の話にも真剣に耳を傾けて頂きました。この貴重な経験と肺がんの治療への厳粛な姿勢から、小川知事の思いの根幹は公、県民との約束とで、それを公平に果たすことと確信しました。他人の論理にも積極的に耳を傾けるが、公との契約の意識は尋常のものではない。我々凡人からすると、頑固さや頑なさに映るのではと思いました。日本人の美意識に恵まれた小川洋君の活躍をもう少し見たかった。早すぎる逝去を心より残念に思いました。

合掌

随 想

「スポーツの力」

東京2020



金 岡 恒 治

(昭和56年卒)

皆様は今回の東京2020オリンピック・パラリンピックではどのような感想をお持ちになったでしょう？

私は修猷水泳部員時代に、厳しいOBの方々が作った練習メニューで、がむしやりに泳ぎすぎて肩を傷めた経験からスポーツ医学に興味を持ち、河合塾を経て、筑波大学の医学専門学群に入学し、卒業後は整形外科を専門とするスポーツドクターになりました。研修医時代から水泳選手を診る機会を作るために筑波大水泳部のチームドクターをさせていただき、競技現場での経験を重ねて、ついには日本代表選手の遠征にも帯同の機会をもらえるようになりました。修猷館の水泳部はベルリン五輪200m平泳ぎ金メダリストの葉室鐵夫先輩や、私の2つ後輩でインターハイ100m自由形優勝の國代竜一氏(現慶應義塾大学水泳部監督)を輩出している名門で、水泳会では二人の名

前を出せばだいたい私の出自をわかってもらえました。その後2000年シドニー五輪で初めてオリンピックドクターとなり、その後のアテネ、北京でも水泳競技に帯同し、ロンドンではJOC本部のドクターを務めました。オリンピック帯同経験で得たことははかりしれず、腰痛でレースを棄権する選手が出てしまった反省から腰痛の予防対策について研究し、その応用で一般人の腰痛の運動療法の普及をライフワークにしていることを始め、数多くの貴重な経験については2016年の修猷館創立記念講演会で全校生徒に披露させていただき、概要は同窓会誌にも掲載されていると思います。

オリンピックでは選手の健康管理が上手く行かずに辛い思いをすることもありますが、多くの選手が良い結果を出してくれたおかげで総じて楽しい経験でした。そのオリンピックが東京で開催されることが決まり、世界最高峰のスポーツイベントに関わることでしか経験できないことを同僚や後輩にも経験してもらえると喜びと興奮とともに、これまでゲストとして参加していた立場から、ホストとして海外選手団を迎える緊張感をもって準備をはじめました。私は日本水泳連盟の理事と医事委員長の立場で東京2020では水泳競技会場での選手用医療サビスを統括する役目をいただいたので、2019年秋にはメデイカルサポートチームを編成し、国際水泳連盟の医事責任者を招いて講習会を開催したりと万全の態勢を整えていました。

しかし、2020年の年初に国内での新型コロナ感染が確認され、五輪開催に暗雲が立ち込めました。クルーザー内での感

染拡大のニュースに日本中が揺れていた2月でも、夏にはさすがに収束するだろうと樂觀していましたが、3月にはパンデミックとなり、世界から人が集まる五輪は延期となりました。

その後の開催に至るまでの多事争論は皆様の知るところですが、その中で浮き彫りになったのが、国際オリンピック委員会IOCが強大な権力を持ち、五輪開催時期や競技時間をはじめ様々な運営に関わることはIOCの決められたとおりにするしかなく、現場での議論の余地がまったくないということでした。マラソンが急遽札幌開催に変更されたことは皆様周知のことと思いますが、競泳競技ではビッグスポンサーの米国テレビ局の意向で米国東海岸のゴールデンタイムに合わせて決勝レースは日本の午前中に開催とされました。ヒトの体温は午後に上昇し、夕方に最も良いパフォーマンスが出せるのですが、日本選手たちは午前中に全力が出せるような調整が求められ、国内にいるのに時差調整を行ったわけです。今回の競泳競技では残念ながら金メダル2個、銀メダル1個とこれまでの流れから見ると低調な結果となり、あるメディアからは「大惨敗」と酷評されています。予想に反して予選落ちする選手も続出したのですが、後の分析によると海外選手の多くは決勝よりも夕方の予選レースのほうがタイムが速く、予選のレベルが想定よりも高かったことが予選落ちが続出した原因の一つに挙げられます。もしもしたら海外選手たちはコロナのために入国時期が遅れ、午前にピークが来るような時差調整ができていなかったのかも知れません。しかし、このような要因がどのくらい「大惨敗」に影響

していたかはわかりませんが、なんと言っても自国開催のプレッシャーが大きいのしかかったことが大きな敗因と考えています。

スポーツはIOCの方針もあって、ますますEntertainment化しています。メディアは有力選手の一挙手一投足を大きく取り上げて、周囲の期待も高まり、もし不祥事でも起こそうものなら世間の鉄槌が下ります。また自国開催の影響でますますCommercialismの波が大きくなり、競技結果によっては巨額の報酬が約束されるようになり、メダルの有無が人生を変えてしまいます。また国ごとのメダル獲得数でランキング付けされるので否応なしにNationalismは高揚し、メディアにメダル候補に持ち上げられた選手は何が何でもメダルをとらなければ世間に顔向けができません。ある選手はレース前に食事がとれなくなったり、前夜に一睡もできずにレースに臨んでいたり、ベテラン選手でも競技会場に入ったときに「結果なんてどうでもいいから早くレース終わって帰りたい」と感じていたと語っていました。メンタルトレーニングでどうできるレベルではなかった東京2020の凄まじいプレッシャーにやられた選手たちはこれを糧にして、今後の競技会では強くたくましく戦ってほしいと願うばかりです。もちろんこれまで以上のメディカルサポート態勢を整えていくのは我々の役目なので頑張っていきたいと思います。

大会運営の方では、一年延期されたため一緒に準備を進めてきた組織委員会の医療サービス担当者は替わり、開催するかし

ないか、観客を入れるかどうかのすったもんだで準備は進まず、直前になっても組織委員会からの最新の情報はほとんど届かず、本当にやるのかな？という気持ちを抱きながら、メディカルスタッフの人員配置調整だけはどうにかすませて、ぶっつけ本番に近い形で7月19日から現地に入りました。やはり予想以上に運営の準備は整っておらず、まずは段ボールだらけの選手用メディカルステーションを機能的に設え、ややこしいパスワード設定をしなければ使えないGE社（IOCのスポンサー）製の電子カルテを調整し、競技会場の各部署の連絡体制を確認したりと大変でした。その中でも最も困ったのが、約80名のメディカルスタッフが競技会場に入るために必要なADカードが大会開催後も手に入らず、入場のたびに面倒な手続きを強いられたことでした。報道で知りましたが特殊なチップが入ったカードでそのチップの供給が滞っていたようです。その他にも運営面でいろいろな問題がありました。メディカルスタッフの意欲は高く、海外選手たちのコンディショニングや安全を確保するために尽力してくれたおかげで大きな怪我や、コロナ感染拡大もなく無事に会期を終えることができました。

これまでゲストとして参加していたオリンピックでは、選手が最良のコンディショニングでレースに臨めるように、文字通りの「アスリートファースト」の態勢でした。しかし東京2020で浮き彫りになったのは、「メディア&スポンサー&IOCファースト」の競技運営でした。スポーツ関係者が今後考えていかなければならないことは、「スポーツは誰のものな

のか？」ではないでしょうか。選手のもの？観る人達のもの？売る人たち？取り仕切る組織のもの？政府のもの？スポーツはとかく美化されがちで、特にオリンピックは聖なるものとして祭り上げられてきていて、このような議論はあまり行われてこなかったと思いますが、これを機会に考えて行かなければならないと感じています。



東京アクアティクスセンターにて水泳のメディカルスタッフと
(著者は左端)

東京オリンピック・パラリンピック2題



森田 博志
(昭和58年卒)

母校に「五輪旗」があるのは知られた話だ。1964年の東京オリンピックの期間中に掲げられた旗を、組織委員会の会長を務めた安川第五郎先輩が寄贈された。

安川先輩は前任者の引責辞任により大会の2年ほど前に会長に就いた。元大蔵大臣の津島寿一会長は東京五輪が決まった59年から大会準備に奔走した。しかし、ジャカルタで開かれたアジア大会をきっかけに雲行きが怪しくなる。インドネシアが政治的な背景から台湾などの入国を拒否した。この対応に国際オリンピック委員会が反発。参加するかどうかわ揺れた日本は結局大会に参加し選手も活躍したが、幹部の対応のまずさに東京五輪をうまく迎えられるか不安視する見方が広がり辞任へ追い込まれた。後を受けた安川先輩は突然の指名にもかかわらず、東洋で初めて開かれたスポーツの祭典を成功へ導いた。

理由は全く異なるが、1年延期された東京オリンピック・パラリンピックも会長交代劇が起きた。さらに無観客開催など異例の展開をたどった。年が明けても莫大な経費がどの程度にな

り、どこが負担するのかなど問題は続くだろう。ここでは、賛否を含めた評価は置き、実際に大会に関わった2人のラグビー部館友が見て感じたことを紹介したい。

平成13年(2001年)卒の田中啓太さんはチケッティング業務のプロだ。2019年に開かれたラグビーワールドカップ日本大会では組織委員会に出向した。座席の管理、販売から当日の入場のオペレーティングまでを担当し、ワールドカップを大成功に導いた。

大会後、東京オリパラを手伝うようになった。単一競技のワールドカップと違い、規模は桁違い。関係者も東京都や省庁、スポンサー企業など多岐にわたる。物事がスムーズに運ばないこともしばしばだった。何より、田中さんが関わるようになって、コロナ禍、チケットを1枚も売ることがなかった。観客を入れるか入れないかもなかなか決まらなかったが、運営面の準備は進めなければいけなかった。

結局、原則、無観客開催となり、お客さんの安全面に神経をすり減らすことはなくなったが、選手や関係者をどこに座らせるかなどの役割はあった。統括的な立場で、いろんな競技を視察した。オリンピックでは柔道の阿部兄妹の金メダル、ゴルフでは名門の霞が関で一流選手のラウンドを間近に見ることができた。

パラリンピックの柔道に修猷出身の瀬戸勇次郎選手が出ることは知っていた。だから、8月27日の視察先は日本武道館と決

めていた。コロナ禍で学校連携観戦も中止が相次いでいたが、この日はある都立高の40人ほどがたまたま観戦に訪れていた。聞くと2022年春で閉校することになっており、限られた生徒数で修学旅行にも行けず、せめてもの思い出になればと観戦に来たという。競技委員として柔道男子日本代表監督の井上康生さんが会場にいた。氣を利かせたスタッフが相談すると、井上さんは快く生徒のところまで出向いてくれた。少し柔道の話をしてくれて、生徒たちとの記念撮影にも応じてくれた。

そして迎えた男子66キロ級3位決定戦。瀬戸選手の鮮やかな内股すかしが決まる。あの高校生たちも跳びはねるように喜んでいた。「後輩、めちゃくちゃ格好いいな」。田中さんも感動した。たまたま、運営の控室と選手の動線が近かった。瀬戸選手が通りかかった。我慢できずに声をかけた。

「おめでとうございます。僕も修猷で……」
氣さくな言葉が返ってきた。

「本当ですか？何年卒ですか？」

少しの間、立ち話が出来た。田中さんは同期のLINEグループで瀬戸選手の様子を報告していた。

「写真を撮ってもいいですか？」

「一緒に撮りましょうよ」

スタッフが決してやってはいけない選手とのツーショット写真が、忘れられない思い出と宝物になった。

「世界トップのアスリートが集まってやる大会だから感動しないわけがない。素晴らしい。それをもっと純粋に見せられ

るように、政治などは抜きにして、もっと愚直に準備すべきだったんでしようね」

田中さんは次なる世界的イベントに向けて戦略を練っている。



瀬戸選手と写真を撮ってしまった田中啓太さん

平成28年（2016年）卒の東葉那さんは2022年が明けて新たな挑戦を始めた。大分の病院で看護師として働く一方、ラグビーのアナリスト（分析）として二足のわらじをはく。修猷ラグビー部初の女子選手だったが、高3の夏にひざの大けがをして選手は断念した。筑波大医学群看護学類へ進み、ラグビー部には分析スタッフで入部した。大学3年のころ、7人制男子日本代表の分析を担当していた先輩から手伝ってみたいか、と声をかけられた。7人制はオリンピック競技で、東京大会を分析スタッフで目指すことになった。20年春に大学を卒業し、オリンピックが終わって看護師になる予定だったが、大会は延期になった。日本ラグビー協会から業務委託を受ける形で分析班に残った。

16年のリオデジャネイロ大会で、男子日本は強豪のニュージーランドを破るなど世界を驚かせた。しかし、今回は海外遠

征や合宿を十分にできないまま本番を迎えた。競技会場に出入りできる人数も限られており、東さんは選手らとは別行動になった。対戦が予想される相手のビデオ編集などの作業

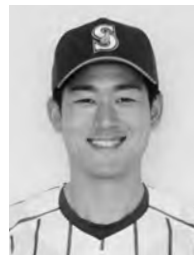


高いところから選手の動きをビデオに収める東葉那さん

を黙々と続けた。日本は11位と不本意な成績に終わった。「選手が一番大変だったと思うが、無事にやり切れたことは本当によかった。もし中止だったら、やるせない思いが残った。反面、準備をしてきたつもりだったのに、結果が伴わず悔しい思いもあった。もつと勝てるように、そういう思いが強い」。

オリンピック後もアナリストはやめなかった。思い描いているのは、チームに同行するアナリスト兼看護師だ。トレーナーが同行することは珍しくないが、医療行為ができる看護師なら別の形のサポートもできるはずだ。1月から日本代表チームドクターの病院で働きながら、代表チームの分析も続けることになった。筑波から日田に引っ越し、福岡が近くなったことがちよっぴりうれしい。元々、看護師を目指したのは自分が大けがをした時に、世話をしてくれた方が格好良く思えたから。「スポーツにはずっとかかわっていきたい」。誰も進んだことのない道を自ら切り開き歩んでいく。

大人の甲子園



井手 隼斗

(平成25年卒)

2021年コロナ禍における東京五輪開催。厳しい世界情勢の中で、野球金メダルをはじめ、最終日のマラソンまで改めてスポーツの偉大さを感じた夏でした。今回は、「社会人野球とは何ぞや?」と日々葛藤し、いまだ泥まみれの中奮闘する西部ガス硬式野球部・社会人野球ひいては企業スポーツへの一個人の思いを綴らせていただきます。

本同窓会誌に寄稿する機会をくださった編集委員の方々、関係者の皆様はこの場をお借りして御礼を申し上げます。また拙い文章で読み辛い箇所が多くあること、修猷館の偉大な先輩方の前に未熟者の思いを記させていただくことをお許し下さい。

「都市対抗野球大会」

なんとなく聞いたことあるな?と思われる人も多いと思います。またの名を「大人の甲子園」。日本の社会人野球の頂点を決めるアマチュア最高峰の大会です。1927年神宮球場で始まり後楽園球場、東京ドームと歴史を刻み今年で92回目の大会

を迎えます。

出場は、全国を北海道・九州・沖縄まで12の地区に分け、各地区の厳しい予選を勝ち抜いた32チーム。各企業・グループの「期待・責任・プライド」を一身に背負い戦います。下は18歳から上は40歳前後まで、プロ野球を志すもの、守るべき家族のために戦うもの、会社への貢献を胸に戦うもの、それぞれの境遇や思いを胸に、大の大人が大袈裟ではなく命がけで戦います。少し自己紹介をさせていただきます。中学3年時、修猷館野球部の19年ぶり夏の大会ベスト4を目の当たりにして、初の甲子園出場を夢見て入学、野球部に入部しました。

しかし現実には厳しく、最後の夏は1回戦敗退。野球への思いは捨てきれず、同志社大学へ入学。同級生には甲子園春夏連覇した者、高校野球界を沸かせた者など最初はギャップに驚きましたが、何とかしがつき結果的に関西学生野球連盟にて、運も手伝いベストナイン・首位打者を獲得し、縁あって現在の西部ガスへ入社。入社4年目にキャプテンに就任し、今年で2年目を迎えます。実は大学時代、あと1勝が届かず全国大会を逃した苦い経験があり、全国大会への思いは人一倍強いものがあります。

現在社会人野球には、97の企業チームが存在します。チームによって程度の違いはありますが、基本的には通常の業務をこなしながら都市対抗野球大会と日本選手権大会の2つの全国大会を目指し、練習に勤しみます。甲子園のスター選手や大学野球を盛り上げた有力な選手などハイレベルな選手たちが、仕事

と野球どちらにも誠心誠意向き合い、頂点を目指す。まさに修猷館で学んだ「何事にも本気で向き合うことのカッコよさ」が、そのまま活かされていると感じます。

社会人野球の全盛期の頃には、237もの企業チームがありました。がバブル崩壊後、企業の業績不振に伴う、休部・廃部の流れは企業スポーツ全体にも波及しました。多くの費用が伴う以上は、当然ながら部は企業にとって価値のあるものでなければいけません。企業にとって費用対効果が見合わなければ、撤退の判断は致し方ないでしょう。このシビアさこそが、企業スポーツの現実であり本質でもあると私は思っています。

頂点を目指す全国に企業の名をPRすることは、大きな役割の一つです。

ただ、これだけを目的としてしまうことは社会人野球、いや、企業スポーツの本質から逸脱してしまいます。企業スポーツは、競技能力を最大限高め発揮することと同じくらい、地域への貢献・会社への貢献も大切なことです。地域の皆様と積極的に交流し、仕事にも全力で打ち込み何事にも真摯に真正面から向き合う。その姿勢に周囲の心が動かされるのではないかとと思っています。

西部ガス野球部でも野球教室や独自の野球大会などを開催し、地域の方々との交流を図りその役割を果たしています。

2012年4月、社会人野球新規参入に厳しい情勢の中、社員の見直しを高め、地域への貢献を図る目的のため地元企業である西部ガス(株) 硬式野球部が発足しました。発足後初めて

の対外試合でソフトバンクホークス3軍に20対0の大敗を喫したのは有名な話です。弊部は、2021年で10年目を迎えます。福岡市東区東浜に専用グラウンドを構え、都市対抗野球大会6回・日本選手権大会3回の出場を果たしているチームです。「誰からも愛される強い野球部」を活動理念とし以下の3つの活動に取り組んでいます。

- ① 仕事と野球を通じて、人間力の向上を目指す
- ② 仕事と野球の両立を図り、いかなる時も全力で取り組む
- ③ 地域との接点を積極的に持ち、スポーツによる地域への貢献を行う

この3つの大きな柱に全てを凝縮しています。

野球部員の業務内容は管理部門・営業部門・供給部門・関係会社への出向など多岐にわたっています。業務時間の少ない社会人チームも多い中、西部ガス野球部は半日業務に従事し、半日練習または試合をしています。練習の合間にお客さまへの対応をすることも珍しくありません。オフシーズンは終日勤務し、部員全員がライフラインを守る事業者として誇りをもつて業務にあたっています。

2020年都市対抗野球大会で悲願の全国初勝利を果たすと、そのままベスト8まで勝ち上がり2021年の日本選手権大会では一昨年チャンピオンチームを破るなど確実にステップアップし頂点を目指すべく前進していると感じています。

仕事も野球も限られた時間の中で最大限の成果を生み出すこと。

西部ガス硬式野球部そして私自身の挑戦はまだ続きます。もともと地域との交流を深め、「地域みんなの西部ガス野球部」となることが目標です。東京ドームの応援席が全国で活躍されている修猷の先輩方や地元の方々で満員になれば、こんなに嬉しいことはないです。想像しただけで身震いがあります。私自身もその役割を全うしていきたいと思っています。「修猷で甲子園ー」から12年、「大人の甲子園」に出場し、未だに優勝を目指し泥だらけになって、野球ができることに日々感謝しています。

唐突ですが、私の好きな言葉があります。

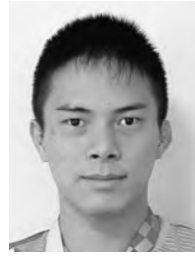
「不確実なことにこそ、幸せの可能性がある」

同志社大学の大先輩、元ラグビー日本代表監督の平尾誠二さん（享年53歳）の言葉です。

世の中が目まぐるしく移り変わっていく中、時に自分を見失い迷路に迷い込むこともあると思います。そんな時、誰にでもある不確実なことから生まれる「余り」に気づき価値を見出すことができれば、道は拓けると信じています。謙虚に実直に物事に向き合うこと。その姿に人の心は動かされるのではないかと思います。

私自身そういう存在でありたいと思います。

パラリンピックを盛り上げるために



瀬戸 勇次郎

(平成30年卒)

みなさんは、今回の東京2020オリンピック・パラリンピックを通して、何を感じたでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響で前代未聞の1年延期しての開催となった今回のオリンピック・パラリンピックは、日本の経済、教育、スポーツなど、社会全体において様々な意味を持った大会となりました。

そんな東京2020大会の大きな特徴のひとつとして挙げられるのが、パラリンピックの盛り上がりではないでしょうか。少なくとも日本国内では、今回のパラリンピックはこれまでのパラリンピックの中で最も注目度が高かったと言えるでしょう。それはもちろん自国開催であったことが大きな要因であることは疑いようがありませんが、ここ数年の社会の動きとして、障害のある人々への意識が変わってきていることも要因のひとつだと思います。それを自国開催のパラリンピックが強く後押ししたのです。この点において、2020年は日本でパラリンピックを開催するにはベストなタイミングだったと思います。

そんなパラリンピックへの関心の高まりからか、今大会では

テレビやラジオ、インターネットを通じて多くの競技が中継されました。また、今回は史上初めて民放テレビ局でもパラリンピックの中継が行われました。みなさんの中にもこれらの中継を通して、今回初めてパラリンピックを観戦したという方は多いのではないのでしょうか。実は私もそうです。正確には夏季大会は、ですが。私が視覚障害者柔道を始めたのは2017年で、それ以前はパラリンピックにあまり興味がありませんでした。しかし、パラ競技を始めて、平昌大会、東京大会と観戦・出場する中でパラリンピックへの印象は大きく変わりました。それは、パラスポーツが障害者福祉として必要というだけではなく、スポーツとしてとても面白いということです。みなさんの中にも同じように感じた方はきっと多いと思います。近年では、国際パラリンピック委員会をはじめパラスポーツに関わる多くの組織で、「福祉からスポーツへ」という考えが共有され、その考えのもとパラスポーツは発展してきました。そして、これこそがパラスポーツをもっと盛り上げていくために必要な価値観の変革のひとつだと私は考えています。

パラリンピックの起源は、1948年のロンドンオリンピック開会式と同日にロンドンにあるストーク・マンデビル病院にて行われた、負傷した兵士のリハビリを目的とした「ストーク・マンデビル競技大会」です。この競技大会が障害種、競技を拡大しながら「パラリンピック」として全世界に広がっていきましました。現在、パラリンピックは障害者スポーツの競技大会としては世界で最も規模の大きな大会であり、オリンピックと同じ

年、同じ場所でオリンピック閉幕後すぐに開催するという戦略によって、その知名度や経済効果も大きなものとなっています。その盛り上がりが高まるにつれて競技人口の増加や競技レベルが向上しており、今や「スポーツ」としての地位を確立しつつあります。

では、パラリンピックが、もつと幅広く言えばパラSPORTSが、「SPORTS」としてもつと発展するためには何が必要でしようか。私が最も説得力があるように感じた答えは、「健常者の参入」です。もちろん、健常者がパラリンピックに出られるようにするという意味ではなく、健常者と一緒にパラSPORTSを楽しむということです。

パラSPORTSの大きな課題のひとつとして競技人口の不足が挙げられます。一般的に、競技レベルはその競技の競技人口、選手層の厚さにある程度比例します。ところがパラSPORTSは基本的にはどの競技においても選手層が薄いのです。これは数字で見ると明らかです。全世界で何らかの障害のある人は全人口の15%ほどいると言われています。さらにその中で、運動をすることが可能でパラリンピックの対象となり得る障害種、障害の程度の人となるとさらに数は少なくなります。それに対して東京2020大会の参加人数はオリンピックが11,092人、パラリンピックが4,403人です。

この人数の競技レベルを支えるためには競技人口がもつと増えなければなりません。ところが、先に述べたようにパラリンピックに参加できる障害程度の人口はごく僅かです。よってパ

ラリンピック競技に限らずパラSPORTSは、障害のある人だけでなく、健常者にも競技に参加してもらう必要があると私は考えています。この点において、近年のパラリンピックの「福祉からSPORTSへ」の転換は強い追い風となるのではないでしようか。

ただ、この方法には大きな問題点が二つあります。まず一つは、パラSPORTS競技者と障害者との実態の乖離です。先に述べたようにパラリンピックに出場できる選手は障害者全体の中ではほんの僅かな障害程度の人々です。さらに活躍し注目を浴びる選手はその中でもさらに運動能力に秀でた人々です。つまり、皆さんがパラリンピックを通して知る障害のある人々の実態と、社会全体における障害のある人々の実態はかけ離れている可能性があるのです。このことは、身体障害者のうち先天性の障害のある人は全体の約半数なのに対し、パラリンピック出場者のうち先天性の障害のある人は約3割ほどしかないという点からも見てとることができます。障害のある人々の中には運動をしない人、できない人も多くいるということを、ハイレベルな競技を展開するパラリンピックが隠してしまわないかが心配されています。

このことは現時点でも問題視されている点で、今後パラSPORTSの競技レベルが向上すればするほどさらに深刻な問題になると予想されます。我々選手はそのことを心得た上で競技をしていく必要がありますし、観戦される方々にもそのことを知っておいてほしいと思います。パラリンピックを通じての

障害者理解が期待される昨今ですが、パラリンピックやパラスポーツは、あくまでその入口のひとつでしかないというのが私の考えです。

もう一つの問題点は、健常者がパラスポーツに参入することによって、障害のある人々の立場が脅かされるのではないかという事です。競技レベルが上がるほど、そして「スポーツ」としての意味合いが強くなるほどに、実力至上主義的な考え方になることは容易に予想されます。そうなると本来、障害者の活躍の場であったパラスポーツで障害者が活躍できなくなる恐れがあります。このことは車いすバスケットボールなどが障害程度に応じてポイントを設定していることや、ゴールボールなどのアイマス・アイシェードを装着する競技でも厳密にクラス分けを行なっていることから見てとれます。

この問題を解消する手段として私が提案したいのは「障害者スポーツ」と「パラスポーツ」の棲み分けです。柔道で例えるならば、「視覚障害者柔道」は視覚障害者が行う柔道であり、「パラ柔道」は視覚障害者柔道のルールに則って視覚障害者と健常者が一緒に行う柔道である、という具合に、障害のある人々が行う競技とインクルーシブで行う競技とで線引きを行うというものです。この棲み分けはとても容易なことだと私は思います。現に多くのスポーツで、男女が、あるいは大人と子どものように年齢層の違う人々が一緒にスポーツを楽しむ、練習し競技力を磨きながら、それぞれの属するカテゴリーの大会に出場しています。障害の有無についても同様なことが可能ではない

でしょうか。

このようにパラスポーツの発展を考えてみると、様々な問題が浮かび上がります。しかしいずれの問題も、スポーツに限らず、今後共生社会実現を目指す上では鍵となるポイントではないでしょうか。多くの人が障害について、障害のある人々について正しい理解を深めること、もっと言えば、障害の有無に関わらず、人々が互いの違いを理解し受け入れること。それぞれの違いに応じた活躍の場所、方法があり、互いがそれを支え合うこと。私はパラスポーツを健常者と障害者が一緒に楽しむことは、このような社会を実現するための取り組みのきっかけになり得ると考えています。

そのために必要なことはパラリンピック、パラスポーツをもっと盛り上げていくことであり、それこそがパラスポーツを「スポーツ」として拡げていくことにつながります。今回の東京2020大会の盛り上がりによって「福祉からスポーツへ」の考え方が広がったことからわかるように、これを推し進める力のひとつは選手の活躍であると考えています。私はその選手のひとりとしてパラスポーツの発展に貢献したいと思っています。まずはその貢献の第一歩として、より多くの人が私の試合を観て、応援して、楽しんでもらえるよう、私にできる最大限の稽古を積み、次回のパリ2024パラリンピックへの出場・金メダル獲得を目指して頑張ります。引き続き応援のほどよろしく願っています。

最後に、今回の東京2020オリンピック・パラリンピック

開催にあたってご尽力くださった皆様、大会関係者の皆様、ボランティアの皆様、医療従事者の皆様、また、私のこれまでの柔道を支えてくださった皆様、指導してくださった先生方、ともに汗を流した仲間たち、応援してくださった皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。



東京2020パラリンピックの表彰式



全日本視覚障害者柔道大会(令和3年11月)

「復興への歩み」

東日本大震災から10年」

東北の人たちの心をいかに受けとめるか



前東北修猷会会長

出 納 克 彦

(昭和45年卒)

震災から10年。予想もできなかったコロナ禍の中で、迎えるとは自然が与える試練は様々であり、それを乗り越えることは本当に容易でないことを私たちは日々痛切に感じている。

東北に来てはや12年、今年春には東北の地を離れる予定だが、勿論、震災を経験することは予想もつかなかったが、東北の地での生活はある意味で私の人生にとって、とても意味の深いものになった。(震災後、修猷館東北研修旅行と、それを契機に設立した東北修猷会については2012年「菁莪」に寄稿したので、お読みいただきたい。)

ここでは、震災前から10年以上にわたる東北生活と、その間の経験を語りながら、東北の今、これからについて述べたい。

2010年5月、東北へ初めて赴任し、仕事柄、様々な階層

や職業の方たちと話をした際、かなりの方から、「東北は、これまでの歴史の中で、7回(人によっては、6回、8回)負けた」と言われた。

誰に負けたとははっきりとは言わないが、少し突っ込んでみると古代において、蝦夷が西の朝廷権力に敗れた時から戊辰戦争・明治維新まで、具体的には、阿倍比羅夫、坂上田村麻呂から、前九年の役、後三年の役、平泉藤原氏、秀吉の東北制圧、戊辰戦争までと言うことになる。

その意味では、東北の人たちの心に、今回の震災がまたひとつの「敗北」として、心理的には加わることになるかもしれないし、そう話す方も少なくない。それは原発事故で帰還困難地域がある福島では特に。

そうなのか、東北の人たちの心には、今なおそのような歴史的わだかまりが蓄積しているのだと初めて認識した。そしてまず、その歴史的経緯を知らねばと、蝦夷を描いた高橋克彦氏の著作等を読み、蝦夷ゆかりの地や、会津若松などを訪ねた。

この東北の人たちの心に澱んだ敗北感が払拭されることが、本当の「東北らしさを誇りに思う心の共有」東北人のための東北」につながるのだと最近改めて感じている。

そうならなければ、「復興は終わった」などあり得ない。身の人間が住む町の「復興」とは、今まで背負ってきた負い目、歴史的敗北感から抜け出して、新たな気持ちを持って踏み出すことではなければならないと思う。



そして、そんな気持ちを「他者」として受けとめるには、東北の土地で生活し、東北の水を飲み、東北の食べ物や食糧を食し、土の匂い、風を体感じながら、人びとと話をし、その言葉に耳を傾ける事が大切だったと思う。震災直後、子供の時から好きだった石川啄木の詩を口ずさみながら、北上川の岸辺に立ったときも、心からそう感じた。しかし、あの大川小の悲劇が起こったのも、北上川からだったのだ。全く歴史というものは一筋縄ではないものなのだ。

東北赴任から10ヶ月、大震災が発生。そして翌年1月、私が

知りはじめた、その東北を、母校修猷館の生徒諸君が、研修旅行という形で訪問してくれたのだった。震災後の次の時代を担う役目を若者たちは持つており、その為に様々な経験が必要であるが、私たちが学んだ修猷館の校是を掲げて、若者たちがしっかりと、その東北人の心を受け止め、自らのものとするのが、まさに修猷館の東北研修旅行だったと思う。研修旅行実施を決めた中嶋利昭元館長は東北修猷会ブログ寄稿文でこう述べている。

『それでも行くのか？生徒を連れて！』涙さえも出ないこの悲惨な状況に胸が塞がれる。「だからこそ行つて自らの目で見えて、聞いて、感じ、考えて欲しい！」「若者に日本を担う覚悟を持たせたい！」。教育に携わる人間として覚悟を決めた。』

東北の人たちが真の「復興」へ進んでいくには、それを支え、復興を自らのものと考え、あえて誤解を恐れずに言う「他者としての当事者」が必要だったし、今もそうだと思う。中嶋利昭元館長はそれを修猷館の生徒に託したのだ。そして参加した生徒諸君も様々な場面で自分自身と向かい合いつつあると思う。

研修旅行に参加し、東北大学に入学し、現在社会人の山本賢君（平成28年卒）は同じく寄稿文で、『私は「東北研修」の経験から「せっかく東北で大学4年間を過ごすのだから、東北からできることをしたい」「震災や被災地と関わる機会を持ちたい」という思いを持つていました。これらの思いを実現したいと思い、ボランティアを始めることにしました。そこから卒業までの4年間、東北では、主に「東北研修」で訪れる機会が無かった福島で、東北以外では地震・豪雨災害の被害を受けた熊本・大阪・広島などで、被災された方の心に寄り添うソフト系の活動を中心に、被災地支援の活動を続けました。』

研修旅行を機に、様々な活動をしている皆さんに私たちは今も大いに勇気づけられている。

この稿の最後に、東北研修旅行をきっかけに東北修猷会設立

という、いわば「井戸」を掘った一人、光岡真一さん（昭和60年卒、平成27年3月逝去）について述べたいと思う。

光岡さんは当時原子核物理の専門家として原子力関係の仕事についており、福島原発事故もあり、当初実施に大きな困難があった東北研修旅行に心を痛めており、実施が決まったことで、自ら研修旅行への同行を決められた。下見から参加し、第1回の研修旅行ではパネリストとして研修企画にも参加した。その後、茨城県在住にもかかわらず、研修旅行や常任幹事として東北修猷会総会にも参加した。

私は冗談で「君は本来は東京修猷会メンバーでしょ？」という、「先輩、イジメないで下さい。私は真正正銘の東北修猷会メンバーです！」。

彼はまさに、「他者としての当事者」であり、「井戸」を掘った一人である。心から感謝している。

今同窓会はなかなか難しい局面にあるのではないかと思う。修猷館は特別で、また幹事の皆さんの努力で活性化しているが、若いOBOGレベルは同期の集まりは参加するが同窓会はちよっとね、という傾向が強いとも聞く。同窓会はタテの関係が強いことがひとつの特徴だからだろ



うか。

いろんな意見があると思うが、少なくとも東北修猷会は設立のきっかけとなった研修旅行の時から、研修旅行の主役は、あくまでも、参加した在校生、あるいはその後卒業後、社会でその気持ちを忘れず、活動しているOBOGであり、東北修猷会は研修旅行を支える「黒子」であることに徹してきた。

2022年から、東北修猷会会長も私から56年卒の工藤砂織さんに引き継がれるが、今後も東北修猷会のモットー、「先輩は後輩の為にある」という面倒見の良さと、多様性尊重のポリシーを発揮して、東北の復興における、当事者、そして「他者としての当事者」の役割を少しでも果たしてほしいと思っている。

付記

なお、2014年度の修猷館でのキャリアセミナーでは光岡さんは原子核物理学（加速器を使った物理学実験、未知の113番元素の発見、化学の周期表の最前線）を現役修猷生に講義していること。また、昨年6月に、光岡さんの研究仲間であつた理論物理学者の小浦寛之さんが新元素「ニホニウム」の本を刊行し、光岡さんのニホニウム研究の内容について言及していること。「ニホニウム・超重元素・超重核の物理（基本法則から読み解く物理学最前線24）」（共立出版）。

そして奥様の裕子さんが、近畿修猷会会報に、「修猷館物理部からニホニウム発見への猷（みち）」という題で投稿されていることを付け加えます。

東日本大震災からの十年を振り返って



小柳 有美

(昭和49年卒)

東日本大震災が起きて十年が経った。本来であれば二〇二一年三月十一日はその追悼の行事が各地で行われるはずだった。しかし、二〇一九年末から起きたコロナ大流行の影響で人々は集会を開く事もできず、ひっそりと祈りの日を過ごした。あの未曾有の大災害は、日本中の私達に大きな影響を与え、様々な事を見せつけた。

大震災の跡

あの大地震は、想像を遥かに超える大津波を引き起こし、原子力発電所を崩壊させた。それらは前代未聞の恐怖と絶望を私達に突き付け、世界中の人々にも脅威を与えた。「真つ黒な津波が来た。それは巨大な壁になって押し寄せ、全てを呑み込んだ。」と地元の人々言う。その波に人々は掛け替えない命や物を奪われ、永く放射能に苦しめられる事になった。

私は、地震後の六月初めに震災ボランティアに参加した。岩手県の大槌町と陸前高田市で作業をする事になった。初めてそ

の惨状を見た時の衝撃は忘れる事ができない。東京から夜を徹して走り続けたバスは早朝五時頃、釜石の海沿いの町へ入って行った。同時に目に入ってきた状況に驚愕した。声など誰も発しないのに窓の外の景色に釘付けにされた人々の視線と、息を呑みこむ気配が皮膚に刺さる様だった。その町には誰もいない。想像を遥かに超えた破壊の跡、強烈な瓦礫の氾濫だった。船が家突き破り、車も電柱も捻り潰され、引きちぎられている状況だった。頭の中に叩きつけられる様に入ってくる現状を、誰もが声も出せずに見ていた。

やがてバスは、陸前高田の丘の上に止まった。背後の山は、流れ着いた物で樹々がなぎ倒されていた。その枝に残骸がぶら下がっている。目の前に広がるのは、ヘドロで埋め尽くされ荒漠とした灰色の地面だ。住宅があつたのであろうが家などは一軒も無い。地平線まで何も無い。ウミネコの声があるので、その向こうは海なのだろう。私達は暫く茫然と突っ立って動けなかった。

一般のボランティアが入るまでの期間、自衛隊や警察隊が全国から集結し、どうにかここまでになったのだと聞いた。裏を返せば一般人には見せられない様な状態がそこにあったという事でもあった。

私達の仕事はこのヘドロの除去と、埋もれている物を引っ張り出す事だった。ヘドロで覆いつくされた地面の中には何が埋まっているのか分からない。屋根や、扉や家具、電化製品など思いもかけない物が出てくる。初めて出会う者同士で声を掛け

合って引きずり出すしかない。アルバムやお弁当箱やランドセルが出てくる時は胸が痛んだ。こんなにも平和な日常の物も、容赦なく泥に呑みこまれていた。

そんな作業の合間、誰かが言った。「元に戻るのかな。この場所に植物が生えるのかな。日本中の高校生がここに来て、種を撒いてくれたら良いのに。」それは非現実な事ではあったが、皆黙って頷いた。

ご存じであろうが、震災の翌年二〇一二年、修猷館の生徒達が真剣に討議し、自由参加という形で東北研修を行った。それを知った時、心が熱くなった。若い人々の真直ぐな力に感動をし、修猷の素晴らしき後輩達に感謝した。

日本中の人々の思いは、形を変えて東北に集まって行ったが、その復旧復興は果てが無く、益してや原発事故による放射能の二次被害は絶望の淵を感じさせる様なものだった。

が、そんな折、外国の知人から十万円の手付けが、私に送られてきた。地震のニュースは世界中を駆け巡っていた。特に、福島の子供達に送られた手紙には、「福島の子供達に本を寄付して欲しい」と書かれていた。急いで本を購入し、福島の移動図書館に送った。

図らずも、この事が、それから続く私たちのチャリティーコンサートが始まりとなった。毎年、コンサートを行い、その収益を岩手、宮城、福島に送った。最初の数年は各地域の図書館

や学校に本を贈った。本は子供にも大人にも、大層喜ばれた。しかし同時に、この災害で二〇〇〇人近い子供たちが、父母を失ったことも知った。やがて、その活動は震災遺児孤児育成基金へと形を変えた。個人の小さな活動だが、心を寄せて下さる方々の募金は、子供たちに今も送り続けられている。

無人の町の富岡町

福島県の富岡町に行ったのは震災から三年目の春だった。富岡町は原発事故の後、放射能汚染地域に指定され、全住民が退去せねばならなくなった所だ。しかしその頃には、限られた時間だけ、町に入る事が許されていた。当時は、常磐線は広野までしか運行していなかった。が、広野まで行きさえすればタクシーが数台稼働していて、富岡町へも行けると聞いていた。

広野一帯も全くの無人の町だった。どこまでも田畑が続き、土手には満開の桜が咲いていた。菜の花や蓮華草も咲き、空までも青く春そのものだった。ただ、そこに人の姿は無い。車も走らない。時々防御服を着た除染作業員の姿が見える。黒い廃棄の袋が田んぼの端に整然と並べてある。運転手さんは、この町の姿を伝えて欲しいと、色々話してくれた。大きな農家が点在している。何事も無い様な風景ではあるが、そこには野犬や狸、鼬などの野生動物が入り込んでいて、と悲しそうに言われた。海沿いにある富岡の駅は、三年が経っても時が止まった様に地震直後の儘だった。ホームだけを残して駅舎も柱も何も無い。駅前の商店は地震と津波で攪乱された時の姿でじつとそこにあった。自然の破壊は勿論容赦無いが、原子力で壊れた街や生

活の復興は更に時間がかかる。

ここには、夜ノ森桜という桜の名所がある。私はここに来たいとずっと思っていた。NHKの中継の車も来ていた。一時帰宅の人々も仕事の手を止めて桜を見上げておられた。誰も住んでいないこの町に万葉の桜が咲き誇っていた。刻を知り花は咲き、やがて黙って消えていくのだと痛切な思いがした。その目の先に、鉄条網が引かれ町を分断していた。その向こうにも街並みが続き、桜はずっと先まで波のように咲いているのだが、そこには誰も入れない。その森の向こうに福島原子力発電所はあるらしい。事故の処理はまだ終わっていない。

現在では既に、この町にも人が戻り、生活が始まっている。整然とした若々しい街がテレビの映像で流れた。人口はまだ震災当時には届かないが、街が生まれていく兆しがある。「時」と「人」が歩みを止めずに前に進んだ姿が静かに歴然とそこに顯れてきている。

宮城の町で見たそれぞれの復興

三度目の旅は宮城だった。仮設住宅や施設を回り、人々に会い話を直かに聞かせてもらう。実体験や実情を聞く事は初めてだったので、衝撃の連続だった。約一週間の旅は、歩み続ける人々の姿に出会う旅でもあった。

この時は、仙台にお住まいであった修猷館四十五年卒業の出納克彦様に大変お世話になった。出納先輩は震災後から、多岐にわたる様々な復興援護に邁進された方だった。そのご縁のお陰で沢山の地元の方々に会う事が出来、直接お話を伺う事がで

きたのだ。感謝するばかりである。

空港から町に向かう窓の景色には、目を見張る変化があった。七ヶ浜や松島へ向かう海沿いの道は整備され、草が萌え広がり、道には若い木々が伸びていた。人の暮らしは、停まらない平常さを備え始めており、ヘドロの地面はすっかり整えられていた。新しい道路には真つ白な中央線が引かれ車が走っていた。

石巻の図書館には、以前贈った本が並べられていた。館長さんが子供達の事を話して下さった。「子供達は震災直後、驚くほど良い子だった。が、三か月もすると、手が付けられない程荒れ始めた。そんな時、子供達を救ったのは絵本だった」と。

女川町では、人々の居住地区を山の方へ移す計画が進み、新しい街が生まれようとしていた。新しい街に希望と期待を持つ人と、今まで生きた場所を離れる事に決心できない人が複雑に入り混ざっている状況だと聞いた。どこでも同じ様な事を聞いた。数年もすれば人々の生き方は多様になって広がっていく。仮設住宅に残っているのはご年配の方々ばかりと言っても過言ではなかった。

住民の大多数が津波で亡くなられた閑上浜地区（ゆりあげはま）の仮設住宅にも、伺った。そこにおられる方々は、「もう海辺の家には帰れない」と仰った。寂しさもあるうし、消えない悲しみもあるに違いない。しかし、故郷のことを話す人々は微笑みを浮かべ穏やかで優しかった。

そこでささやかなコンサートをした。微笑みは笑顔に変わり、歌声が変わっていった。四季折々の唱歌や民謡の大合唱はさな

がら村の祭りの様になった。突然、「地元『閑上天漁祝い唄』を歌おう。」と声が上がリ、皆で一緒に歌い踊った。あの方々はどうぞされたらどうか。まだ仮設住宅におられるのだろうか。希望が見えない時でさえ、人は意識もせずに立ち上がる。その先に道を見つけ、身を委ねていく。大自然と共に生きてきた閑上の人達はそんな事を知っていて、体の奥で受け入れている様だった。

この旅では、避難所の管理をしておられた方々にも、話を聞く事ができた。当初、避難地や仮設住宅での人々の行動は、『節度が守られ、思いやりがある』と称賛をもって世界へ発信された。が、実際の状況は様々な問題を抱え大変だったという事を知った。究極の状態の中で、自分をコントロールする事は至難の業だったとも伺った。後ろに暗く隠れているドロドロした物を痛いほど実感しなければならなかったのだろう。『生きる』という事が容赦のない事だと痛感したとも言われた。当事者の人達は、今やっと声をあげられる様になったとも聞いている。避難をした人も、管理をする側も様々な物を目にし、経験し体験した。

時間は悲しいほど淡々と流れ、そして、静かに物言わず心を癒し、傷をも癒す。その見えない感情が前に進むエネルギーを創るのだろうか。しかし同時に、消えない痛みがじつと内に溜まる事もある。その一つ一つが自分との葛藤となる。そんな事を抱きかえる様に十年が経った。

ここに数冊の手記がある。育成基金を送り続けてきた事で、

子供達が送ってくれた冊子だ。家族を失った子供達からの便りである。その子供達は十年の齢を重ね、大きくなった。小学生だった子が青年になり、中学生や高校生だった子は社会人になった。学校に行ける喜びや、勉強を続ける事ができた幸せに行けないと思っていた大学にまでも行けた、と何とも尊い便りである。社会で働く事に感謝し、部活ができる事さえ嬉しい。地域で働く喜びや、将来の夢も書いてある。

私は、これこそが十年の賜物だと思う。ボロボロでも立ち上がった人がいたから、背筋も伸びて行く、涙も拭こうとする。必死な姿で、自分たちの足でしっかり生きてきた人がいたからこそ、親や家族を失った子供達が、希望を持つ処まで来たんだ。今、コロナのパンデミックで、世界中が命と直結する危機と混乱の中にいる。しかし、その中でさえ人は生きることがを模索し、愛する者を守ろうとする。絶望の中でさえ、生き延びようとしている。知らない者同士が励ましあい、思いやり助け合う事が繰り返される。これこそが生きるといふ本能の力なのかもしれない。

図らずも、東日本大震災の十年を待たずに始まったこの大きな試練。しかしそれもまた、一步一步立ち上がって歩こうとしていく人々の前にこそ、希望と未来が開けていくのだと思えてならない。

*補足 東日本大震災における震災遺児孤児の数1778人

(平成27年10月7日復興庁)

館歌歌詞の変更を考える



川原 章

(昭和42年卒 一九猷会)

我々修猷館卒業生にとって、心のより所である館歌、その2番の歌詞語句について考えます。

事の発端は、令和2年11月14日、新型コロナウイルスが蔓延中に苦悩の上、リアルとオンラインのハイブリッド型総会を初導入し、開催された第45回近畿修猷会総会においてでした。遠路はるばる出席いただいた故川崎同窓会長、高島前館長をご来賓に迎え、出席者全員で、館歌斉唱ならぬ「館歌黙唱」と称し、心の中で歌っていましたでした。

我ら修猷生は、館歌歌詞は暗記しており、通常、歌詞カードは見ないまま声を張り上げて歌っていました。初めての黙唱の為、手持無沙汰で、何気なく総会資料の歌詞カードを眺めていると、館歌歌詞2番の語句が「玄界」となっているのに、初めて気が付きました。

その時点では、持参した前年度の総会資料添付歌詞は、従前通り「玄海」を確認したので、今回は、誤記載と自分は早とちりしてしまい、隣席の同期生に次回主催学年は「玄海」に戻すだろうと言って、ご来賓の手前、近畿修猷会総会の中では、館歌歌詞誤記載の指摘発言はしませんでした。

ところが、令和3年の年賀挨拶メールで、同期生から同窓会のホームページでは「玄界」となっていると連絡があり、急いで高校、同窓会のホームページを閲覧すると、両方共に館歌歌詞「玄界」表記を確認できました。

そこで、知り合いの同窓生や関係者に対し、歌詞に関する問い合わせや調査をお願いして、館歌歌詞に関する事実調査をメールを中心にして、令和3年11月迄、11ヶ月間継続して行いました。種々の制約の中で、個人調査の範囲ではありますが、今まであまり知られなかった事実が判明したので、同窓生の皆様にお知らせいたします。

館歌の作詞者は「藤沢雄一郎」氏で広く知れ渡っていますが、作詞原本はいまだ不明のままです。大正12年の館歌制定後、歌詞表記にも色々変遷の時代があり、修猷館2000年史194ページ記載による大正期の館歌歌詞表記で、現行歌詞と相違する語句については次の通りです。

- 二番…青春の血は玄海の
- 二番…荒き波穂と湧きたちて
- 三番…質朴の風を甘なひつ

三番…吾等の使命を果さなん

その後、現行館歌歌詞に変更された時期は不明ですが、私の調査で判明したことは、

昭和30年発行正史、昭和31年卒業アルバム、昭和39年学校要紀では、

二番…青春の血は玄海の

三番…吾等の使命を果してん と現行歌詞と違う表記です。

次に昭和40年学校要紀では

二番…青春の血は玄海の と現行歌詞と違う表記です。

三番…吾等が使命を果してん と現行歌詞と同じ表記に変更

更を確認しました。

更に昭和53年学校要紀、卒業アルバム、昭和50、55年同窓会会員名簿では

二番…青春の血は玄海の と現行歌詞と違う表記です。

しかし、昭和53年創刊発行の修猷歌集では

二番…青春の血は玄界の と現行歌詞と同じ表記に変更を

確認しました。

現行の館歌歌詞は、昭和53年創刊発行の「修猷歌集」の歌詞表記を高校・同窓会の公式統一見解として、昭和53年11月に決定したとのことです。

私の素朴な疑問として、作詞者が明確なのに何故に作詞原本が不明なのか？作詞原本に近い公的文書でなく、何故に昭和53年発行の修猷歌集と昭和60年発行の200年史の歌詞表示なの

か？団塊世代昭和42年卒の我らが在校中に教えられた二番歌詞語句「玄海」は何だったのか？次々と私の脳裏に疑問が沸き起こりました。

歌詞原本の歌詞が「玄界」で何らかの事情により「玄海」となり、昭和53年発行の修猷歌集で元に復したのであれば、変遷の流れで理解できますが、修猷館2000年史194ページには、大正期の歌詞聞き書きとして、「玄海」表示があり、私の調査範囲では「玄界」の初出は昭和53年創刊の修猷歌集であり、大正12年制定からの公的館歌資料に玄界表示歌詞は未だ未発見状態です。

別の側面として、言葉の意味から考察すると、広辞苑、日本地名大事典では、「玄海」は玄界灘の略称であり「玄洋」とも称されると記載されています。

一方「玄界」は、辞書に言葉の意味表示はありませんでしたが、「玄」と「界」の漢字の意味として、黒く暗い世界、幽界を表し、英文表記ではBlack&Dark Worldとなります。

玄海と玄界は、発音が同じゲンカイで似たような漢字語句ですが、意味は全く異なる語句です。東京修猷会2008年総会資料の添付パンフレットに館歌歌詞の解釈があり、2番の：青春の血は玄海の荒き怒濤と湧き立ちて：は、「我らの青春の血潮は、玄界灘の荒々しい怒濤のごとく湧き立っている。」と記載されています。

玄界は、地元福岡居住の人間にとっては、玄界灘、玄界島か

ら容易に海をイメージすることが出来ますが、玄海、玄界ともに、発音が同じゲンカイで、勘違いしやすいと私は考えています。

館歌歌詞表記の調査においては、同期生他関係者の熱心な協力の賜物でより明確となりました。高校正史では、昭和30年（1955）、昭和40年（1965）、平成17年（2005）発行分歌詞は「玄海」、昭和60年（1985）修猷館200年史のみは「玄界」表記です。

・高校学校要紀では、平成12年迄「玄海」、平成13年より「玄界」表記です。

・高校卒業アルバムでは、平成13年迄「玄海」、平成14年より「玄界」表記です。

・同窓会会員名簿では、平成22年迄「玄海」、平成27年より「玄界」表記です。

・同窓会発行DVD歌集歌詞カード、平成24年発行は「玄界」表記です。

・「玄界」決定理由は不明、決定議事録も不明、同窓誌「菁莪」に歌詞決定関連記事ナシ。

・修猷歌集は平成22年3月1日第11版を同窓会が発行し、歌集の為、著作者達とは契約未締結。

・近畿修猷会総会資料添付歌詞では、令和元年迄「玄海」、令和2年は「玄界」表記です。

・東京修猷会HP：「修猷の歌・楽曲」：shuyu.gr.jp/TAKIMOTO/MUSIC/music.htmlは「玄海」表示。

・館歌制定90周年記念「東京修猷会の葉」（無二の会編）平成

25年発行。

・館歌の変遷記事：shuyu.gr.jp/tky/2013/06/s6sshort2013.pdf
・単行本「修猷館200年の青春」巻末歌集、読売新聞昭和61年刊行では「玄界」表記です。

・「名刺広告新聞」毎日新聞平成13年刊行では「玄海」表記です。

以上の事実確認から、調査経過を振り返ると、昭和53年までの「玄海」世代、昭和54年からの「玄界」世代に分けられます。それぞれの世代で、在校時に教えられた歌詞語句は違うので、考え方も相違すると思います。今後五十年、百年と続く修猷館の伝統文化を継承する上で、館歌は、大切なよりどころと私は考えます。作詞者の思いが込められた館歌歌詞原本調査を今後共、微力ながら継続致します。館歌作詞原本が不明の現状のままでは、上記の事実調査結果を踏まえて、館友読者の皆様が、館歌歌詞を考える材料の一助になれば幸甚です。

修猷館の今後の発展の為に、同期生他の仲間と共に、自分は何をなすべきかを考えています。上記の館歌歌詞調査は、今後継続していく所存ですが、個人の力ではあまりにも微力ですので、広く館友読者の皆様のご協力を賜りたく、関係資料の情報ありましたら、お知らせ願います。又、上記資料に関する質問ご意見についても、メールにてご連絡ください。

川原章 Email:igfhp584@yahoo.co.jp

キャリアセミナー

New York から Love Letter



西尾 美和

Miwa Gemini
(平成4年卒)

もう気が付いたら、ニューヨークに来て30年になります。ドキドキしながら一人で乗った飛行機の上で過ごした20歳の誕生日。「地図は街中では開く。観光客とバレると危険。」というガイドブックを読んで、着いたその日に地図を暗記してイーストヴィレッジを歩き回ったのをよく覚えています。まっしぐらに突き進んだ大都会の生活、日本は捨て去った気力で直行し、気が付いたら本当に日本から離れていました。稀に帰国する度に親に「日本語下手になったね」と言われるぐらいでした。結婚もニューヨークで出会った英国の人、ますます日本が遠ざかっている時、長男出産。高齢出産でしたが、元気な赤ちゃんに出会って初めて日本との絆、家族との絆の大切な事を知りました。日本語を改めてよく使うようになり、同じように永住している日本のママさん達ともつながりました。実は子供が、ほ

ぼ記憶から消されていた修猷館に私を繋げてくれたのです。子供が小学校に行き始めた一、二週間目のこと、放課後ピアノを習いに行くスクールバスの中で、息子が日本語をしゃべる一つ上の女の子に会ったというのです。面白い偶然だなと思いつながら音楽学校に迎えに行くと、いました！日本人っぽいママさんが。話してみれば、息子が言っていた女の子のママさん。しかも、福岡出身。偶然だねって聞いてみれば修猷館卒業生。「えええええ！いつ卒業？」って実は同じ年度。私は高校留学を3年生の時にしたので、一つ下の学年と一緒に卒業しました。ニューヨークに来て初めて会った修猷館卒業生。人生面白いって再確認。

その同級生の空閑満知子さんの紹介でキャリアセミナーに投稿することになりました。でも正直言って『英語でいいですよ』と言われてホッとした。英語の方が楽になってると言う情けない状態です。書くのも漢字変換さまでです。キャリアセミナーって言われてもさてどうしよう？



とりあえず自分自身ありのままが一番だと思っ取り組みました。過去のビデオを編集しながら、初めて自分の人生を振り返り、いつも思い通りに行つたわけじゃなかったけど、後悔のない道を歩いてきたんだと再確認しました。自分の人生を振り返るチャンスなんて滅多にないので、感謝の気持ちでいっぱい。在校生の感想文もなんだか涙がこぼれそうな正直な心溢れたものを沢山いただきました。有名進学校だけに、卒に入らない生き方とかあまり考える機会が無いと思います。読みながら、高校生、青春って素敵な響きがするけど、不安がいっぱい詰まった時期だとも思いました。そういう生徒さん達に自分の好きな事を頑張つて見つける応援ができれば幸いです。

在学生の皆さん、自分自身の発見頑張ってください。応援しています。



令和3年度 キャリアセミナー

(在校生向けキャリア紹介として同窓会2021総会WEBサイトに掲載)
WEBサイト掲載期間は5月26日～7月31日

柳澤 純	外科医ってどうなの？	深堀 亮	外交官という仕事
水本 博	わたしの獣(みち) ～化学工学、再生医療、大学教員～	片桐 大地	やりたいことより、 やりきること
射場裕美子	「食律生命」を実践する職業： 病院管理栄養士	古城 良	四十にして迷わず (人生何があるか分からない)
伊崎 智子	小児外科医という仕事	早崎 裕子	ヤメ検弁護士が語る 『法律家のお仕事』
城戸幸一郎	後悔することが人生最大のリスク！ 全力でチャレンジしよう！	都筑 彩子	外資系 IT ベンダーのお仕事
石橋 顕	Road to Olympic	水崎 之子	韓国ドラマに見る エンタメ の力と映像ビジネスの変化
岡 大輔	デザインで人生を、 社会を楽しく！	大淵 和憲	テレビ局職員から 博多職職員へ
西尾 真	ギネ Dr.のミッション ～ある産婦人科医のキャリアを通して～	西尾 美和	夢を追って New York へ
中島 学	スタートアップ ベンチャー7社を経て思うこと	宮地 慎二	弁護士という仕事
藤原 航三	自分の興味を追求し社会に貢献する ～大学における物質・材料研究～	小堀 深	早稲田に理工なんて あったっけ？

資料館案内

資料館運営委員会

昨年発行された「菁莪」では増改築された修猷資料館の様子と、収蔵されている孔子像・五輪旗・ワリヤークの鐘について紹介をしました。館内には他にも多数の資料が展示されています。今回は卒業生の絵画・掛軸等を展示している第1展示室と修猷館の歴史を物語る第2展示室からいくつかの展示品とその背景などについて紹介をしていきます。文中「写真」とあるのは実際に展示されているものです。資料館はコロナ禍のため長期間の閉館を余儀なくされましたが、状況が落ち着いた段階で一般の方々へ向けた開館を準備したいと考えています。皆様の機会がありましたら資料館へお越しください。開館日につきましては修猷館高校ホームページに掲載する予定です。

再興修猷館の功労者 隈本有尚

渡辺公利

(修猷館高校講師)

明治4年の廃藩置県により、藩校（東学問稽古所修猷館）も廃止されましたが、学校設立についての金子堅太郎（藩校修猷館）の献策を採用した黒田長溥により、福岡県立学校として明

治18年に再興されたのが「英語専修修猷館」であり、現在の修猷館高校に繋がっています。その初代館長である隈本有尚および関連資料について紹介します。



【写真1】

隈本 有尚（くまもと あり
たか）万延元年（1860年）
～昭和18年（1943年）「写真1」。
初代館長（明治18年～明治22年）、第4代館長（明治27年～明治33年）として修猷館の基盤を構築した功労者である。

久留米出身。東京英語学校などを経て明治11年東京帝国大学理学部星学科入学（1期生）。東大では團琢磨（藩校修猷館）から天文学を学ぶ。優れた数学者・天文学者であり、数学の行列を日本で初めて紹介した。東大予備門で夏目漱石、正岡子規に数学を教えていた。正義感の強い厳格な人柄であり、漱石の小説「坊ちゃん」に登場する数学教師「山嵐」のモデルといわれる。東京帝国大学助教であった明治18年、金子堅太郎に請われて25歳の若さで英語専修修猷館の初代館長となった。英語専修修猷館では英米史・数学・物理等を英米の教科書を用いて学習するなど、開国間もない明治期にあつて英語を重視した先進的な教育を行った。明治20年の火災で校舎が焼失したが、再建に奔走し、黒田家や地域の篤志家の寄付を受けて大名堀端に移転した。館長を退いた後に起こった投石事件のため、修猷



【写真2】

館は一時館長が空白となる時期があった中で、明治27年第4代館長として再度迎えられた。この年に校章として六光星を制定し、このときから制帽に徽章として輝くことになった「写真2」。明治33年には校舎を西新の現在地に移転した「写真3」。なお、明治30年には修猷館の英語授業参観のため来館した夏目漱石と再会している。漱石は修猷館の英語教育を絶賛して文部省に報告している「写真4」。

制帽と六光星

資料館には時代順に1号から8号まで制帽が展示されている。徽章は明治27年に2号の「修」から3号の六光星になった。六光星はこの年修猷館に再赴任した隈本有尚館長が制定したものであり、その形状にこめられた思いが「六光星の由来」として修猷館高校ホームページに次のように記されている。

『伝統に輝く六光星の徽章は明治27年、日清戦争期の興隆する国運を背景に制定された。その由来は朱舜水の「楠公賛」の冒頭の句「日月麗乎天」によるものであって、日月と輝きを同じくする星の光に将来を荷う若き青年の希望を託したものである。なおこの星は、北極星をかたどったものであり、永久にゆ

るがぬ人生の指針をこの星に仰ぐという意味がこめられているとも言われている。』

明治33年移動の校舎

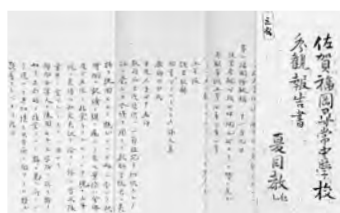
明治33年西新へ移転した校舎。当時の正門（現在の東門）の正面に本館が見える。昭和2年まで校内に寄宿舎があり、昭和14年まで使用された。現在の校舎は西新移転から3代目に当たる。



【写真3】 初代の西新町校舎

夏目漱石の報告書

明治30年、当時第五高等学校英語教授であった夏目漱石が文部省の依頼を受けて中学修猷館の英語授業参観のため来館した。



【写真4】 夏目漱石が修猷館英語教育について記した「佐賀福岡尋常中学校参観報告書」の写し

文部省への報告書で漱石は特に五年級「訳解」の授業について教師・生徒とも日本語を用いず、訳読・会話・文法の内容を総合的に含む内容であると高く評価し、「西洋人ヲ使用セザル学校ニ於テ斯クノ如キ正則的二授業スルハ希ニ見ル所ニシテ從ウテ其功績モ此ノ方面ニ向カツテハ頗ル顕著ナルベキヲ信ズ」と述べている。

修猷館投石事件

大島 泰 治

(昭和32年卒)

明治時代中期に修猷館が再興されてわずか6年後に起こった投石事件は軍の圧力に抗して、教育の自由と独立を護るという、修猷館の歴史の中でも特筆すべき事件であった。

修猷館再興の由来を記した「修猷館再興録」は、この事件について特に「本館の歴史中逸すべからざるものなり」と述べている。

初めにこの事件を知るに当たって、この当時福岡城内跡地(現平和台陸上競技場)に陸軍の歩兵第24連隊の兵営があり、この兵営が福岡城の堀を挟んで大名町上の橋の中学修猷館(藩校修猷館跡)と向きあっていたので、軍隊が演習などで学校の近辺を行進することは日常的な光景であったことを知っておかなければならない。



尾崎 臻 第2代館長

明治24年(1891年)3月24日正午過ぎ、1名の軍人が突然館内に入ってきて尾崎臻館長に1個の瓦片を見せて「いま軍隊が館の前を通っていたところ、館内から飛んできたこの瓦片が行進中の兵卒の銃に当たっ

軍隊に投石したことは軍隊を軽蔑したことで、天皇陛下に対して不敬の至りである。投石者を調べてほしい」と要求した。館長はかねてから軍隊を尊敬すべきことは日常よく教えているので、生徒が軍隊を蔑視するとは思われないが、昼休みに砂利などを投げ合って遊んでいたところ、それが土堀を越えたものかもしれないと考えて「生徒を取り調べた上で何分のお答えをしよう」と答え、軍人は軍曹岡村忠夫と紙片に書きとめて帰った。学校は直ちに厳密な調査を行ったが、結局誰の行為かわからないうまま、午後5時ごろ生徒を帰宅させた。一方、館長は県庁に赴き、この事件について報告したところ、一応香川連隊副官に会って挨拶をしておいたほうがよからうということなので、帰路挨拶をして帰宅した。

翌3月25日副島歩兵少尉が一中隊を率いて来館し、投石者はまだ判明しないかとしきりに催促し、自分たちが直接取り調べの模様を見なければ納得できないと要求したが、このことは教育の本質にかかわるものであるから、館長と教頭は断固としてこれを拒絶した。校門は軍隊によって封鎖され、生徒は校内に監禁され、一人も外出出来なかった。引率の兵士は武器



投石事件当時の中学修猷館正門

を持ったまま館内を徘徊するなど、館内は軍隊によって蹂躪されたため、館長は後日のこともあるので、県庁に連絡したところ、県庁からは後藤課長と属官の2名が来館し現状を視察した。午後5時、館長は明日午後6時までに何等かの確答をしようと約束して副島少尉は士卒2名を残して引き揚げたが、その後大野曹長というのが来館したので、県庁から山崎書記官が出張してきて、残兵を全部引き揚げるよう要求し、午後11時に軍隊は全部引き揚げた。取り調べについては、何の証拠もつかめぬまま、生徒一同を帰宅させたのは午前零時を過ぎていた。

3月26日、館長は連隊に副島少尉を訪ね、前日の取り調べ状況と結果を報告した。県庁からは山崎書記官が再度来館し、今日からは軍隊と県庁とで交渉するので、軍隊と修猷館とは直接談判はしないこととしたから、学校は取り調べに力を尽くすよう指示した。しかし、午後5時までの取り調べでも確たる結果は得られなかったなので、館長、教頭、寄宿舎取締一同は進退伺いを提出した。

翌3月27日、安場県知事が来館し、館長、教頭に罰俸、寄宿舎取締一同に譴責処分を行った。尾崎館長はその直後、辞表を提出した。

事件の経過について館長から報告を受けた黒田家は4月24日県側の見解を質し、その中で「今回の行動は軍隊の行政干渉のように見受けられるが、陸軍の軍規に背反しないか、よく審査する必要がある」としている。また「筑前人民ハ非常ニ激昂シ、修猷学会ハ此事件ヲ調査シ、充分其筋ヘ上申セント決議シタル

由：」とある。

投石事件に対する社会的反響は大きく、当時の新聞は筆を揃えて、教育に対する軍隊の態度を論難した。

遂に学校側から投石者は出なかった。というよりは、当初から尾崎館長に投石者を差し出す積もりなどなかったと思つて間違いない。

尾崎館長は旧福岡藩士で、若くして幕末・維新の動乱に身を投じた筑前勤皇派の志士である。軍規をもつて威圧的に迫る軍隊が国家の干城であるなら、教育勅語を奉ずる学校の生徒もまた国家の干城であり、対等の存在であるという固い信念があつたからである。尾崎館長が県知事あてに出した伺書の中に「当館における軍隊の挙動が、軍規によるものなのか、士官の臨機にしよう求めており、また後日提出した「意見大意」の中でも教育の独立と尊厳を強調している。

事件は中央にまで及び、文部省は陸軍省に福岡連隊長の更迭を強く要請し、当時の連隊長佐藤正は、同年10月28日愛知県豊橋の歩兵第18連隊付に転補となった。また尾崎館長も同年11月27日依願退職して事件は落着いた。



投石事件の書類

その後、黒田家第13代当主黒田長成が第3代館長に就任した。なお、この事件には後日談があり、明治35年に福岡連隊長として赴任して来た仙波太郎は、特に修猷館に来館し、生徒一同に会して「今から十余年前に本館には投石事件と言う有名な事件が勃発したそうだ。自分がここに来た以上、決してあんなことはひき起こさせない、皆さんと共に平和に国家のため貢献したい、どうか安心して下さい」と挨拶したので、生徒一同好感を以てこれを迎えたという。

資料館の収藏品

田 中 敦

(昭和36年卒)

資料館の収藏品は、現在まだ整備中ですが、その中で絵画、彫刻などは、133点を確認しています。今回は、その中から5点を紹介します。

吉 田 嘉三郎 (1861~1894)

文久2年大分県中津に生まれる、旧中津藩士。中津中学校の助教諭を経て明治22年から中学修猷館に勤務、同校美術部の初代顧問を務めた。のちに生徒であった吉田博(旧姓上田)を養子に迎えて後継者とした。

展示作品は、「黒田長湊公肖像」デッサンF5号。[写真5] 明治の混乱期に藩校修猷館の再興に尽力した福岡藩十一代藩主

の肖像画は写真と見間違ふほどの精密な作品となっている。

吉 田 博 (1876~1950 明治32年卒)

明治9年久留米市に生まれる。中学修猷館在学時、吉田嘉三郎に画才を見込まれ養子となった。大正9年版画版元の渡辺庄三郎と出会い木版画を始めた。

展示作品は、「ユング・フラウ山」木版画M8号[写真6]「田川筑後川の夕べ」、「蛇使い」此等は全て昭和48年卒業生から卒業20周年記念として寄贈された。昨年「没後70年 吉田博展」が全国各地で開催され、福岡会場では、資料館所蔵の書簡2通も展示された。



[写真5] 写画 黒田長湊



[写真6] ユングフラウ山

中村 研一（1895～1967 大正3年卒）

明治28年宗像郡南郷村（現在の宗像市光岡）に生まれる。
明治42年中学修猷館に入学、在学中に児島善三郎、中村琢二らと絵画同好会「パレット会」を創立し西洋絵画を勉強する。
展示作品は、「けしの花」油絵F10号「写真7」。太田弁次郎氏（大正6年卒）より寄贈された。他に「大西水道」「バルコンの女」を収蔵している。

中村 琢二（1897～1988 大正4年卒）

明治30年新潟県佐渡郡相川町（現 佐渡市）に生まれる。中村研一は実兄。昭和3年兄・研一の勧めで画家を志し安井曾太郎に師事する。

展示作品は、「阿蘇の秋」油絵10号「写真8」阿蘇の秋景色を、中間色を用いて穏やかな風景を描いている。他に「生の松原」を収蔵している。



【写真7】 けしの花



【写真8】 阿蘇の秋

〈美術部員の回想〉

昭和36年画壇で活躍されている先輩方と在校美術部員会同の第一回修猷美術展が丸善で開催されました。勿論中村兄弟にも出品をお願いしたところ、兄・研一さんは、快く応じて頂きましたが、弟・琢二さんからは、「アマチュアと一緒にの展覧会には出品しません。悪しからず。」との返事を頂き、美術部員一同ガックリしました。美術展も無事終わって反省会の時、「さすが先輩！先輩のプロ意識に負けた。」と美術部員一同妙に納得した思い出があります。

安永 良徳（1902～1970 大正8年卒）

明治35年神奈川県横浜浜市に生まれ。京都府立第五中学校から、中学修猷館に転校。昭和22年復員後は福岡に定住し福岡の美術界の指導者として重きをなした。身近な作品として平野二郎国臣像（福岡市西公園）裸婦座像（福岡県立美術館）などがある。

展示作品は、「母子像」ブロンズ像、高さ

120cm「写真9」資料館入口左側の庭に設置されている。修猷協会が鑄造し、昭和25年卒業生から卒業30周年記念として台座（インド御影石）が寄贈された。



【写真9】 母子像

花盛り同窓会

同窓会総会報告

WEB同窓会総会 開催報告

「あゝ修猷感 〳これが私の生きる猷〳」



同窓会総会・
懇親会実行委員会 委員長

富 安 孝 成

(平成4年卒 朋猷会)

令和3年度の同窓会総会の実行委員長を務めさせていただいた朋猷会(平成4年卒)の富安です。まずは、コロナ禍という特殊な環境下での同窓会総会・懇親会の開催に際し、多大なるご支援とご協力を頂いた皆様に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

また、同窓会総会の直前に川崎隆生前同窓会会長が急逝されたことは、大変残念でなりません。川崎前会長は、同窓会総会の準備期間においてコロナ禍で幹事学年を迎えた私共、朋猷会へ労いの言葉とともに常に常に寄り添い、様々なご支援をくださいました。大変感謝しております。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

2021年5月28日土曜日、令和3年度の同窓会総会はコロナ禍のなか、例年のように館友が一堂に会することは難しいと判断しWEB上で開催しました。昨年、令和2年度の同窓会は新型コロナウイルス感染症の急な感染拡大により直前に中止となりました。開催予定日の2年半前から準備を重ね、ほぼ準備を終えた中での中止という判断は当時、幹事学年であった讃猷会(平成3年卒)の先輩方にとって本当に無念であったと思います。

その思いと共に次年度幹事のバトンを引き継いだ2020年5月の時点では、まさかこのような状況が現在も続いているとは思ってもおらず令和3年度の同窓会総会は例年通りホテル会場において、多くの館友を迎えられるものと考えていました。

しかし実際にはコロナ禍は収束せず私ども実行委員会の会議さえできない状況が続き刻々と月日が流れ、2020年11月下旬に会場予約のキャンセル期限を迎えました。まだまだ先が見通せない状況にやむを得ず会場予約をキャンセルすることにしましたが、それと同時に幹事学年として同窓会総会自体を開催するか否か、中止または延期か、開催するとした場合どのような形で開催するのかと様々な選択を迫られました。

中止という選択も致し方ないと考えましたが幹事学年となる一生に一度の機会に何かしらをやりたいという強い思いがあり、今できること、今しかできないことをやろうという思いからWEB上での同窓会開催という結論に至りました。

当初は、オンラインやWEB同窓会ということに対して私共

の中でも、そこまでしてやる意味があるのか、参加する人がいるのか等、懐疑的な意見がありました。しかし、コロナ禍の環境下で約束の日に間違いなく開催できること、世界中どこからでも参加可能で、より多くの方々に参加いただける可能性が広がること等、WEB開催に多くのメリットを期待しこの新たな試みを行うことを決定しました。そして同窓会役員のほか常任幹事会の皆様、その他たくさんの方々にご理解とご協力、様々なご助言をいただき開催予定日の約半年前から準備を始めました。同窓会総会WEB特設サイトを立ち上げ、いつでも視聴可能な特設期間内限定のオンデマンドコンテンツと当日のライブ配信企画をもって当日を迎えました。

【定期総会】

定期総会は当日に開催しライブ配信ということも検討しましたが、会場の感染対策や予算のことからやむを得ずVTR収録とさせて頂きました。

VTRでは、新たに就任された津田同窓会新会長や岡本修猷館新館長の就任挨拶が行われるなど厳肅な雰囲気の中、例年と同じ構成で進行了ました。このWEB総会で初めて定期総会に参加された方も多かったのではないのでしょうか。これもWEB開催の良い結果だと思っています。

【懇親会】

懇親会からは収録映像を織り交ぜながらライブ配信が行われました。

まず、懇親会の冒頭に、中止となった令和2年同窓会総会で

行われる予定であった当番幹事の引継式が行われました。前年幹事の讃猷会（平成3年卒）柴田実行委員長から同窓会総会幹事学年のしるしである『修猷魂の旗』を受取り改めて幹事の引継ぎを行いました。

【座談会】

「あ、修猷感これが私の生きる猷」のテーマのもと、様々な分野で活躍されている館友7名によるリモート座談会をライブ配信で行いました。遠くオランダ在住の同窓生も参加して頂きオンライン開催ならではの企画となりました。

【リモート館歌】

全国の様々な世代の同窓生から送っていただいた館歌斉唱の動画を一つの動画にまとめ作成したVTRで配信しました。冒頭の昭和17年卒、伊藤先輩の巻頭言には圧倒されました。在校時代と変わらない皆さんの館歌にかける熱意が伝わる素敵な館歌斉唱となりました。

【オンデマンドコンテンツ】

現在の修猷館の周辺を紹介する『西新ぶらり』、西新周辺の今昔が一目でわかる『定点写真』、新校舎内を探索できる『校内360度ビュー』、学食紹介『修猷めし』、様々な分野で活躍する朋猷会メンバーにより『在校生向けキャリア紹介』など多数のコンテンツが好評を得ました。

『在校生向けキャリア紹介』は、引き受けてくれた同級生が多忙な中、自身で動画を収録し、自身で編集してメールで送ってもらうという手法で作成しました。自身の顔を見ながら動画

を編集するというのは非常に辛いものだということを後に聞きました。動画で自分の顔を見る辛さは今回の事で私自身もよく分かりました。

懇親会の当日は放送会場となる同窓会館に午前中から準備に入り動画には映っていませんが多くの同窓生が裏方として参加してくれました。

ライブ配信の最後は先輩方から受け継いだ修猷魂をGO猷会（平成5年卒）に引き継ぎ、終了としました。旗を引き継いだ後にやっと気がついたのですが今回の同窓会で何よりも重要であったことは引き継ぐことができたということです。平成3年卒から4年卒へ、平成4年卒から5年卒へ、あの場で引き継ぐことができたということが本年の同窓会の最大の意義であったと感じています。

我が国、日本はギネス記録でも認定されているように世界最古の国です。二千年余り途絶えることなく続いているということは常に引き継がれているということだと思います。引き継いでいく、受け継いでいくことで新しいものが生まれる、あるいは進化していけるのではないのでしょうか。

令和4年度の状況はこの原稿を書いている時点では全くわかりません。しかし何かしらを次の後輩に引き継いで行ってください。よろしくお願いします。

最後にご協力、ご支援を頂いた同窓生の皆様、そして修猷館高校に大きな感謝を述べて終わりにしたいと思います。

本当にありがとうございます。



東京修猷会総会報告



実行委員長

岡 武 志

(平成6年卒 六星会)

令和3年6月11日の東京修猷会総会は無事、実施完了しましたことをご報告いたします。

幹事学年六星会(平成6年卒)は令和2年(2020年)6月実施の東京修猷会総会を仰せつかりましたが、新型コロナウイルス感染拡大による当年の中止を経て翌年令和3年(2021年)6月の開催における幹事を担当させていただきました。

オンライン開催となりましたが、関東のみならず、全国から640名の参加のお申し込みをいただきました。ご参加いただいた館友の皆様におかれましては、途中お聞き苦しいところや映像が不安定なところもあったかもしれませんが、長時間ご視聴いただきありがとうございました。

思いおこしますと、僕たちが総会幹事のバトンを拝命した2019年6月の東京は、過去最高の来日観光客を更新し、街は国内外の観光客に溢れ、東京オリンピックを一年後に控え、

街全体が高揚感を纏っておりました。そのような中開催された東京修猷会総会は1学年先輩の平成5年卒GO猷会の先輩方が担当されており、会場であるハイアットリージェンシー東京の大宴会場は、各々再会を喜び、旧交を温める館友でひしめきあっており、熱気にあふれておりました。約700名が一堂に会する盛大なる懇親会の終盤にて、壇上のGO猷会渡邊実行委員長より総会実行委員長のバトンを受けとった時には、「来年この数を再びお招きし、しっかりとおもてなができるのだろうか。次の学年に無事バトンをつなぐことができるだろうか。」と、この歴史ある会の成功を請け負う重圧を感じたのを思い出します。

その後、同期と打ち合わせと飲み会を重ね、楽しく準備を進めておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大は第2波という形で深刻化し、2020年に入ると準備や打ち合わせもままならない状況になっておりました。同年5月に開催される福岡の同窓会が中止されるという報告もあり、東京修猷会総会も中止の判断がなされ、翌年の令和3年もオンラインでの開催へと舵が切られました。過去の素晴らしい総会を思い起こすにつけ、今度は「パーティーがなく、懐かしい顔が見られない総会にどれだけの館友に興味を持っていただけののか」「きちんと次の学年にバトンを渡せるのか」と最後まで不安は拭いきれませんでした。

東京修猷会のみならず世の中に甚大なインパクトを与えた2020年を記念し、修猷館のこれまでの記憶と未来をつなげ

るきっかけとなる企画を提供するという主旨で、中止になった令和2年総会のために決めていたテーマである「東京修猷2020」過去と未来をつなぐ猷（みち）」をそのまま継承することにしました。高校や同窓会の行事が次々に中止を余儀なくされ伝統の継承が懸念される中、図らずも、先輩から受け継いだこの東京修猷会総会自体を後輩に受け継ぐという意味合いも含まれるテーマとなりました。

総会の準備の方も様相が変わりました。同期で集まる打ち合わせはままならず、主にウェブ会議を使って進めることになりました。福岡の同期は、東京のメンバーではままならないコロナ禍における現役高校生の生活の取材、恩師へのインタビュー、福岡同窓会の役員の皆様と館長のご案内まで快く引き受けてくれただけでなく、またオンライン配信の技術的な知識の不足についても多大なるサポートを引き受けてくれました。そのおかげで直接東京にご招待できない福岡の来賓の皆様から福岡からの中継でメッセージをいただくことができることになりました。

本番は東京は学士会館、福岡は同窓会館に関係者のみ集まって、現場2拠点と自宅からオンラインでサポートする同期とで連携して収録することとなりましたが、オンライン開催の操作は本番一週間前のリハサル、当日の最終リハサルでもうまくいかず、リハサルにご参加いただいた伊藤会長をはじめ東京修猷会の執行部の先輩方には「少しくらい映像が乱れるのはしょうがないよ。」と声をかけていただきましたが、多大なご心配を残したままの本番スタートとなってしまいました。

しかし蓋を開けますと、奇跡的に大きな乱れもなく配信に成功し、同期の本番の強さと集中力に脱帽です！内容においても、コロナ禍でも明るく前向きに生活する現役高校生や現役大学生諸君のビデオメッセージは修猷館の未来が磐石であると確信するに足るものでしたし、恩師御三方が振り返るメッセージは懐かしくも我々が現役当時思い至らない先生の人間臭い一面もご紹介いただき貴重なお話となりました。

参加者の方は通常総会と変わらない640名ほどの皆様にご参加表明をいただきました。懇親会がないオンライン総会でも応援してやろうとご参加いただいた全国の皆様一人一人のおかげでございます。誠にありがとうございます。

加えて、それぞれコロナ禍の生活にも不安がある中、総会の企画運営をサポートしていただきました東京修猷会執行部の皆様、福岡をはじめ全国の同窓会の皆様、それぞれのパートをやり遂げてもらった六星会のみんな、そのご家族や職場の皆



様のご理解など、多くのお力に支えられてこの会がこのように盛大に開催できたと感謝申し上げます。

今回、懇親会の開催は叶いませんでしたが、この総会を通じて、彼の地を離れた皆さんの記憶の中の修猷館に重ねて、今回ご紹介しました「今」の修猷館、先生方の記憶の修猷館が未来の修猷館へと想像と希望が広がるきっかけになったとすれば本望です。

今年の東京総会は平成7年卒七猷会の出番です。彼らになんとかバトンを渡せたことに何よりほっとしておりますし、個性溢れた新進気鋭の諸君の主催をとっても楽しみにしております。皆様も今年の東京総会にご期待ください。

そして、今年こそは皆さまが全国の総会会場でお顔を合わせられ、肩を組み再会を喜びあえることを切に願っております。

ありがとうございます。



近畿修猷会総会報告

年度幹事

池田 渉

(平成2年卒 卒猷会)



令和3年11月20日(土)、私たちが通った修猷館の校舎を彷彿とさせる重厚な大阪倶楽部のホール。来賓挨拶と事業報告等は厳肅な雰囲気、古希祝いやクラブ活動報告はほのほのと、終盤の学生挨拶や来年の福岡総会告知等で元気づき、そしてフィナーレ、福岡・修猷館からのライブ中継で「おおうつ」とどよめく盛り上がり。やってよかった！そしてTHANK YOU修猷！と感じた瞬間でした。

私たち卒猷会は1年前の総会で学年幹事をガンガン会から引き継ぎましたが、それ以降1年間の活動は常にコロナ禍の状況をにらみつつ進める必要がありました。イベントや新聞発行に関する打ち合わせを何度も何度も繰り返しましたが、そのほとんどをオンライン会議で行い、メンバーは9人しかないのですが、全員がリアルに集合したのは、実はこの総会当日が初めてでした。年度幹事をスタートするにあたって設定した年度テーマは「猷(未知)へのチャレンジ」ニューノーマルDE

意思ソツ」でしたが、まさに文字通りニューノーマルなスタイルで意思疎通を重ねることになりました。

1年間の主な定例イベントとして春と秋のツアーがあります。私たちは春イベントに薬師寺拝観、秋イベントに京都街歩きを企画して準備を進めました。いずれもコロナ感染状況の悪化で中止に追い込まれ、残念な思いをしました。だからこそ、この総会だけは何としても実現したいという思いでした。1年前の総会はリアル会場とオンラインのハイブリッド形式で行われましたが、今年は従来のように大勢集まって賑やかにと期待する声もありましたし、コロナ禍においては、完全オンライン開催が現実的ではないかという意見もありました。卒猷会としては、皆さんの期待にお応えしたいと思い、確実に総会を実現したい思いのジレンマの中で、リアル形式、ハイブリッド形式、完全オンライン形式の3つの選択肢の準備を同時並行で進めました。そして判断を迫られるタイミングであった8月、近畿修猷会の幹事会でハイブリッド形式での開催が決まりました。この決定後にコロナ感染者数はピークを迎え、不安を持ちつづけながらの準備となりましたが、9月以降は感染状況が落ち着いてきたことも幸いし、総会当日まで参加申し込みは増え続け、最終的にはリアル参加75名、オンライン参加60名、合計135名と多数の参加を得て開催することができました。

会のスタートの特別講演では、われらが卒猷会の蒲池みゆきさん（工学院大学副学長）が「顔の認知科学と商品開発」マ

スクをしても表情は伝わるか？」と題し、心理学・工学・神経科学にAIや自動認識等の技術を絡めたテーマで話してくれました。積み重ねられた研究内容や最新技術紹介に加えてコロナ禍におけるマスク越しの表情というタイムリーなテーマもあり、会終了後も問い合わせがある等、大きな反響がありました。

芦原会長挨拶につづく来賓挨拶では、修猷館の岡本館長、修猷館同窓会の津田会長、東京修猷会の伊藤会長にビデオメッセージをいただき、関西福中・福高同窓会の岡部会長にはご臨席での挨拶をいただきました。修猷館ラグビー部の花園出場をかけた福岡県予選決勝と重なったため、岡本館長にはご来阪いただけませんでした。皆、選手の健闘を称える思いでした。そして議事としては、事業報告、決算報告に続きフラットなネットワーク型組織への組織改革案と新しい世話人選任案が提案・決議され、新しい組織体制がスタートすることになりました。

続いて古希のお祝いとクラブ活動報告が行われましたが、従来の9クラブに加え、今回新設された「でじたるしつとう会」の活動方針（コロナ禍でも豊かな生活・活動ができるよう会員のデジタル化を支援する）も示されました。続く学生参加者挨拶では平成30年卒の大原実希さんがコロナ禍2年目の学生生活の変化や学外でのプロジェクト活動について話してくれました。そして平成5年卒・GO猷会による来年の福岡総会のPR、近畿修猷会の年度幹事の平成3年卒・讃猷会への引き継ぎまでを終え、いよいよファイナレ、ハイブリッド形式ならではの企画、福岡修猷館からのライブ中継です。

福岡からのライブ中継は卒猷会の福岡メンバーが担当してくれました。2年前の改築工事で整備された、青々とした人工芝グラウンドや校内一周走路・短距離走路等が夜間照明をつけて紹介された他、グラウンドの一部にある、開閉可能な穴に関するクイズも出題されました。（答えは大運動会のスタンド設置用の穴でした。修猷館特別仕様！）。修猷館周辺の街の変化についてもリポートがありました。プラリバ（昔の西新岩田屋）の一部が再開発でタワーマンションになったこと、西新パレスのボーリング場が残念ながら来年春季に閉鎖になること、そんな変化の中でも蜂楽饅頭はあの場所が変わらず営業していること等が映像とともに紹介されたのです。そして中継の締めは蜂楽饅頭の食リポ「おいしいですー」。会場では、修猷館グラウンドの最近の整備状況に驚いてどよめきが起こったり、（コロナ禍なのに）クイズに思わず声を出して答えようとなったり、西新の街並みに懐かしさを感じてうんうんとうなずいたり、と明らかに会場ホール内の温度が上がったのです。そして彼の群小の黙唱の後、再び修猷館グラウンドに戻り、元応援部メンバーによる「フレイフレイ 修猷」のエンル。久しぶりにあんな大声を聞きました。もちろんリアル会場は大きな手拍子で最高潮！

総会の進行スケジュールを議論する打ち合わせでは、技術的に不安があることからライブ中継には慎重な意見もありましたが、「猷（未知）へのチャレンジ」の精神で企画を進めることができてよかったと感じました。通信状況が悪くて画面が一時

固まったり、会場ではハウリングが発生したりと慣れない素人集団のハイブリッド運営のためヒヤヒヤする場面もありましたが、ご愛敬ということでご容赦いただきたいと思います。

この一年間の年度幹事をやらせていただいて、改めて修猷館のありがたさを実感しました。重要な判断の場面でご指導をいただいた芦原前会長をはじめとする幹事団の皆様、これまでに積み重ねられたノウハウ等を惜しみなく伝授してサポートしてくださった先輩方、そして運営実務面で共に働いてくれた後輩の皆さん、と縦のつながりの大事さを再認識できましたし、そして何より同期の横のつながりの強さに今更ながら気づきました。本当に心強く、助けられた幸いです。

関係する皆様はこの場をお借りして改めてお礼申し上げますとともに、近畿修猷会への引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。



〳支部だより〳

近畿修猷会

近畿修猷会は2021年度、新型コロナウイルス感染拡大により新年会、春・秋のイベント全てを中止せざるを得ませんでした。

厳しい環境下において総会は前年度に続きリアルとオンラインのハイブリッド総会としてリアル75名、オンライン60名、合計135名の参加を得て11月20日に盛大に開催致しました。平成2年卒の卒猷会の皆様が企画・運営を行い、修猷館高校ともオンラインで結ぶなど新しい企画が好評を得ました。

本総会においては組織改革案を諮り承認されました。これまでの会長をトップとしたヒエラルキー型の組織からフラットなネットワーク型の組織「世話人会」に改組しました。

同窓会の組織のあり方を根本から再考し、役員ではなく「世話人」（会の運営をサポートするお世話係）としました。先導するのではなく、会員の皆様と共に運営する組織となります。世話人の中から代表、副代表を選びますが、階層ではなく一つの役割との位置づけです。

また、必要に応じてチームを組成して運営する「チーム制」を導入しました。世話人はチームの中でそれぞれが培ってきた能力を生かして自由闊達に企画・運営を行い、更に各チームが

有機的に連動することにより相乗効果を発揮できる組織を目指します。

初代の代表世話人に大竹恵さんが選任されました。代表世話人は1期2年で交代することを原則として、常に新しい人材が新風を巻き起こす組織を目指します。

連絡先 大竹 恵（昭和51年卒）

中京修猷会

「今年こそは皆で集まって総会や忘年会をやりたい」という願いも空しく、新型コロナウイルス変異株の猛威も加わり2年連続で各行事の中止を余儀なくされました。

そんな中で、「現環境下でやれること」「将来に繋がること」を念頭に置き嶋尾会長以下幹事一同知恵を絞りながら諸活動を行いました。

最初は、会報「猷交」の送付先拡大です。従来の愛知、岐阜、三重3県に加え静岡西部、長野、北陸各県の館友に猷交を送付し、中京修猷会活動の紹介及び参加の呼びかけを行いました。興味を持っていただいた方の連絡や参加をお待ちしています。

次は、「紙上大忘年会」です。忘年会中止の代わりに「猷交70号（12月発行）」に会員の皆さんの近況や思いを掲載しました。これをきっかけに新たな繋がりができることを期待しています。

同号には東京パラリンピック柔道銅メダリスト瀬戸勇次郎さん（H30卒）にも登場いただきました。瀬戸選手の快挙を皆で祝うとともに今後の更なる活躍を応援したいと思います。

昨年来新型コロナウイルスに翻弄されましたが、改めて人の繋がりの有難さを痛感しました。

中京修猷会は、（拡大先も含め）この地域の館友の皆さんの交流や啓発の場となるような活動が続けていきたいと思っています。

川野 靖史（昭和54年卒）

中国四国修猷会

中国四国修猷会では、コロナ禍で先行き不透明な状況ではありますが、来年には収束していることを祈って、以下の通り2022年度総会の日程・場所を決めています。コロナの収束状況によって中止・延期等もあり得ます。4月には決行or中止・延期および決行の場合の詳細は、同窓会のホームページおよびFacebookの同窓生サイトでお知らせします。

日程…2022年6月25日（土）18時～20時30分

場所…広島グランドインテリジェントホテル（広島駅在来線口

より徒歩5分） <https://intelligent-hotel.co.jp/grand/>

会長 河野 浩（昭和46年卒）

宮崎修猷会

R3活動報告

令和2年度の宮崎修猷会年次総会および懇親会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で残念ながら中止となりました。令和2年末から令和3年1月にかけて宮崎県においても新規感染者数が急激に増え、苦渋の決断をすることとなりました。さらに、第5波では新規感染者が連日100名を超えるようになり、8月末にはまん延防止等重点措置の対象となりました。この原稿を書いている現在（令和3年11月末）ではようやく状況が落ち着いて、しばらく新規感染者がでない状況です。このような感染状況のため、宮崎修猷会ではしばらく活動ができておりません。このまま状況が落ち着いて、令和4年1月には定例の年次総会および懇親会を開催し、来賓をお招きして会員の親交を深めることができることを願うばかりです。

宮崎修猷会是小規模な会ですが、アットホームな雰囲気集まりです。宮崎へ転入される館友の方は、是非、宮崎修猷会へご参加ください。お待ちしております。

文責・光田 靖（事務長・平成5年卒）

沖縄修猷会

一時は医療崩壊危機まで叫ばれた新型コロナウイルス感染症も10月からは減少に転じ、緊急事態宣言地域であった沖縄県でも、11月には新規感染者がゼロの日が報告されるようになってきました。残念ながら、沖縄修猷会総会・懇親会の御案内時には予測が立たず、大事を取って、本年も中止させていただくことになりました。昨年同様、代替企画として、11月13日にZOOM懇親会を開催しました。沖縄修猷会の特徴を反映して、本年も東京や福岡からの御参加を頂きました。帰国帰宅途中の堤尚広氏（初代沖縄修猷会事務局長）・南スーダン大使（昭和55年卒）のサプライズ参加もありました。また、同窓会総会幹事学年のGO猷会（平成55年卒）からは、実行委員長の岩永知久氏を始め、キャラバン隊の古藤孝子氏、丸山順子氏も御参加頂き会を大いに盛り上げて頂きました。ZOOM二次会も予定時間を大幅に超過するほど、非常に「密」なりモート館友交流を持つことができました。沖縄在住・非在住に関わりなく、「緩い」沖縄修猷会に御興味のある方、11月に沖縄旅行をご計画の方々は、是非ともご一報をお願い致します。一見さんも歓迎いたします。

山崎 秀雄（昭和55年卒）



東北修猷会

東北修猷会の2021年

昨年2021年の東北修猷会は、コロナ禍で殆ど活動らしい活動は出来ませんでした。

2020年の定期総会は中止。昨年春は、修猷館出身の東北大学合格者3名（女子1名男子2名）という嬉しい結果を確認しましたが、新人歓迎会を行うことができませんでした。

2021年は2011・3・11の東日本大震災から10年という節目の年でした。しかし宮城県はじめ、東北各県もコロナ感染の拡大で、自身の活動も制限され、震災被災地訪問なども殆どできず、毎月11日に行う「きっかけ食堂@仙台」（東北の食材を食しながら、震災について語るイベント）のオンライン開催がわずかに行うことのできた活動でした。

そのような状況の中、2021年の定期総会は、様々な情報を検討した結果、昨年12月11日18時から、Zoomを使ったオンライン総会ということで開催いたしました。

総会参加者は14名。宮城、東京、岩手、福島、千葉から参加いただきました。

今年の本部同窓会幹事年H5年卒の2名（開催PR、また「みちのく潮風トレイル」を完遂したばかりの坪内俊之君（S45卒））にも参加していただき、実際のトレイルの様子を紹介

してもらいました。このトレイルが少しでも認知されることは被災地訪問としてもとても大切だと思います。

（詳細ハートは）<http://tohokuenv.go.jp/mct/sp/route/>

今回の総会では、東北修猷会の新会長として、工藤砂織さん（S56卒）、幹事長に山本文彦さん（S59卒）が就任しました。

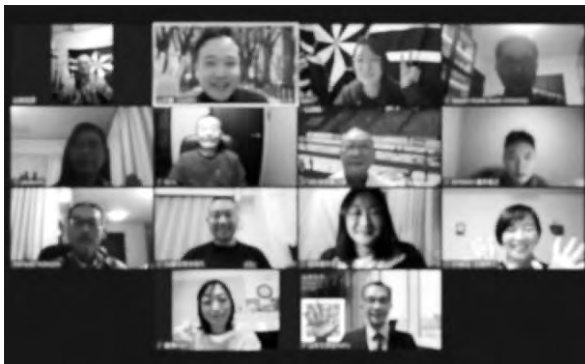
常任幹事に本田卓さん（H2卒・留任）、笹森亜矢子さん（S63卒・新任）、瀧澤かおりさん（H4卒・新任）、また東北研修旅行に参加した、山本賢君（H28卒・新任）にも参加してもらいました。

修猷館の同窓会支部会長として、初めての女性会長だと思っています。

来年こそは、オンライン

開催でない定期総会が開催されることを心より、期待します。今後とも、東北修猷会をよろしく願います。

前会長 出納 克彦（昭和45年卒）



〓周年行事〓

絶滅危惧種の「三一会ゴルフ仲間」

高橋 俊之

(昭和31年卒)

昭和四十七年十二月末に、今は宅地に変った「生の松原」で故阿部元治君や故古賀茂夫君が地元就職してゴルフを始めた同期生達と初コンペをして以来、春秋年二回、日祭日に先輩や交際者も交えたコンペを「定例」にして続けて来ました。

卒業三十周年の「総会」に各地から来福したゴルフ仲間が、「二十七回コンペ」に参加以後、五年毎の「卒業記念総会」と「コンペ」をセットにして、「四十周年」から「定例」とは別に催しました。遠来者が減り「卒業記念は六十周年で終り」が、雨で延期し「コンペは五年後で総て終了」と突如決りました。五年後の昨年十月に延期の「卒業記念」を、十一月に最終の「百五十回」を終った八十四歳の高齢者達に修猷気分が甦って「ヨカトから逝キヨルト！俺タチャ不良長寿でクタバランケンマーダコンペヤルゼ！」で「総て終了」が突如消滅しました。私も含め大勢の仲間達が還暦を迎えて、定年退職し帰郷してコンペ参加希望者が百人以上に成り、開催を平日に変えても、幹事は大勢でコンペが出来るゴルフ場を探すのが大変でした。「三一会用のゴルフシャツとキャップ」を故石井順之助君と故河辺真二君がデザインして揃え、年四回に増やして、各自の

ハンディーを算定し、優勝は二割、準優勝は一割をカットして次回の幹事を託し、優勝者には仲間で彫刻家の木戸龍一君作の彫像を持ち回りして、十回毎に彫像取切戦とハンディー改定を行う、等と「会則」を定めて、木戸君から十六像も頂きました。「定例と卒業記念」の計百五十五回の記録中、山田朋信君が保管していた百三十六回分を、私が「総集編」に纏めました。

百二十二人の仲間達が参加して、最多参加者は森東洋彦君が百十七回、最多優勝者は故阿部君が十一回、最多彫像獲得者は故阿部君と中村保夫君が各三像、等々と思いいの出の記録集です。

皆が古希を迎えた「百回」から高齢者用ティーにしましたが、コースが短縮された以上に飛距離が短くなりスコアが増えて、二桁で上がる仲間が減り、二十回以上参加した六十六人の中で平均グロスが百以内は僅か十三人でした。トップは故阿部君で六十回参加の平均が九十で、私は九十三回の平均が百十でした。私の目標は「年内（百八の除夜の鐘が鳴る前）に上がる」です。ベストグロスも故阿部君で、五十五歳時に「セブンミリオン」で行った「四十一回」で出したワンオーバー「七十三」です。

八十路に入り「足が不自由」者が増えて、コース内乗入可の「福岡国際の中山コース」に決めました。「足が不自由」とは「歩行と運転」で、「歩行」は、筋トレや医療で改善しますが「運転」殊にペダルの踏み違いは超危険で即免許返納ですね。私は乗用車が二ペダルに成って以来、右足でアクセル、左足でブレーキと、二足の担当を分けた運転ですから絶対安全です。百人以上居た仲間の三十余人が昇天し、五十人以上が運転やゴルフを止めて、今は僅か十二人の「絶滅危惧種」です。

学年一口連絡アンテナ

【昭和29年卒】 六八会の皆さん元気ですか。コロナが収まらず、会の集りも見通しが立たず、R4春には何んとかと思います。昨年来下記の諸兄弟が旅立ちました。新貝、池上、葛西、赤岩、高須、吉武、梅崎、渡来、渡辺（栄）、鹿島、田上（藤田）、田中丸（小田）。

黙祷、お互いに自分を大切に、ストレスを溜めずに、もうすぐ米寿の会、翌年は卒七十周年、亦会う日を楽しみに。

岡村 祥三

【昭和33年卒】 2年程前から続くコロナの中で、我が同期は皆しぶといためか、この間死亡したのは医者の方田君ただ一人です。皆それぞれにがんばって生きております。

ただ、コロナのため同窓会関係では開催することが出来ず、真に残念です。しかし今年は大半の者が83才となりますので、そろそろ先が見えてくる様です。

入江 正徳

【昭和37年卒】 S37幹事の福地君からこの欄の執筆を譲られたので、三七会関東支部の私から一言。関東支部で毎年秋にやっている集りも、二年続けて聞くことができませんでした。昨年はその代わりに近況報告集を作ることとし、四十名以上の同期生から寄稿を得て配付することができました。今年は顔を合わせたの会を是非開きたいと思っています。

小野寺 夏生

【昭和41年卒】 残念ながら今年も新年会は中止となりました。しかし、クラス幹事のアンケートの結果、卒業55周年は何とか実行したいとの意見が大勢でした。この春、コロナの状況を見て秋ごろ開催したいとの意見が多くありました。近々クラス幹事会を開き、結果が出たらお知らせします。

渡邊 章

【昭和45年卒】 50周年行事・古希の祝・定例の新年会・総会後の懇親会は、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み2年続けて開催ができませんでした。令和3年10月の緊急事態宣言解除から、東京・福岡でも少人数から「集まってみよう」という機運が高まっています。感染拡大防止の取り組みをしっかりと行いながら楽しめましょう。各会の連絡は45会MLからお届けしています。本年もよろしくお願いいたします。

森下 七百枝

【昭和49年卒】 この2年間、コロナの影響で同窓会や飲み会もなかなかできない状況になっております。しかし、オンライン飲み会もすっかり定着し、遠方の仲間や、随分会えなかったメンバーとも気楽に交流できるようになってきました。今年は、久しぶりのよろしく会大人の修学旅行を企画しているところですので。コロナとも、安全にうまく付き合いながら実現できることを祈るばかりです。色んな事がありますが、どんな時にも強かに、楽しく元気にやっていきたいものだと思う66歳の私達です。

小柳 有美

【昭和50年卒】 新型コロナウイルスの影響により、同窓会や同窓会ゴルフ大会が2年連続中止となりました。集まる機会がへりました。皆さん、お元気ですか？

毎年発行している同窓会通信「気まぐれ通信」も18号となりました。今年度の運営委員会で継続発行が決まりました。登場してない同窓生にできるだけ書いてもらおうというのが編集方針です。依頼が来た場合、是非、ご執筆をお願いします。趣味でも、孫の話でも、所感でも何でも書きたいことを自由に。ここ福岡では、コロナが少し収まったので柳川大将の『柳』に時々集まり、旧交を温めています。では、ご自愛のほど。

五輪会 伊東 望

【昭和52年卒】 「オンライン飲み会で長生き」

コロナをきっかけに始まった「オンライン飲み会」も14回を数えました。当初は戸惑いもありましたが、徐々に浸透し今は2ヶ月毎に開催しています。イギリスやレバノンなど海外から時差越えて参加する仲間もいて、オアシスとなっています。幾つでも仲良く支え合う仲間のいることが健康に生きる秘訣。皆さん、お待ちしております。

津崎 盛久

【昭和54年卒】 合志会新年会、還暦記念同窓会は当面見送ります。学年内のお知らせは、合志会サイト、メーリングリスト、Facebookいずれかを一覧ください。

合志会サイト (<http://54kaistar6.jp>) 公開部分には修猷館関連情報を掲載。他学年のみなごまからの情報もお待ちしております。

菊池 政道

【平成2年卒】 昨年、近畿総会の当番が終了しました。これで同窓会の役回りもひと段落しました。これも皆様のご協力あつてのことです。本当にありがとうございました。今年の総会がリアル開催であれば、その二次会で、もしくは、お盆ごろに同窓会が開催できたらと思っています。

三戸

【平成3年卒】 令和4年の近畿修猷会は、我々讃猷会が当番幹事を務めます。実行委員長の後藤健介君を中心に近畿在住のみんなで準備を進めてくれてますが、11月に向けてまだまだ同級生の仲間を募集中です。

近畿総会に合わせて日本中、世界中から集まって、50歳記念同窓会ツアーも考えたいですね。メール、FB、すまっぽんで情報発信するので、皆さま、よろしくお願いいたします。

事務局 松田 由理子

【平成5年卒】 GO猷会のみなごま、早いもので卒業30年、幹事学年がやってまいりました。同窓会総会に向け、岩永実行委員長を中心に準備を進めています。素敵な記念グッズも順次出来上がっていますよ。コロナ禍で不確定要素もたくさんありますが、みんな「大人の文化祭」を楽しみましょう。GOGO！ひとりでも多くの参加をお待ちしています。日時場所、裏表紙をご参照下さい。

常任幹事 能見 信二

【平成10年卒】 H10卒の皆さんお元気でしょうか？マメこと村上弘です。

こんな状況でなかなか同窓会などで集まることはできていませんが、早いもので2023年は卒後25周年を迎える年になります。

何かの形で集まりたいと思いますので連絡先の変更などあれば、村上弘のメールアドレスまで！（下ページ参照）

村上弘

【平成11年卒】 「はよせん会」の皆様、引き続き、名簿修正へのご協力をお願いします。フェイスブック非公開グループ「修猷H11年卒同窓会」も開設済み。毎年年末（12月30日夕方、@西新）には学年の同窓会兼忘年会を開催していますので、ぜひご参加ください。別掲の連絡先一覧表にある本学年のメールアドレスまで近況等お寄せいただければ幸いです。

常任幹事 石橋 知也

【平成12年卒】 卒業20年の同窓会から早くも2年、今年はどこかで集まりたいですね！

常任幹事 松尾 光泰

学校報告

創立記念講演「可能性を信じて」

2008年北京五輪セーリング49er級日本代表

石橋 顕氏

(平成4年卒)

5月28日(金)、創立記念行事が行われた。

この創立記念行事は、天明4年(1784年)の創立から237年、長きにわたって受け継がれてきた本校の歴史を再確認し、未来へと繋ぐ意義深い行事である。

創立記念式典で、岡本圭吾館長は、創立以来の本校の歴史を振り返りながら、『世のため、人のため』の精神のもと、館歌の歌詞に込められた想いにふれ、「不羈独立」「質朴剛健」「自由闊達」に象徴される校風、「踐脩厥猷」にはじまる「修猷の学び」など、多様性に富んだ『修猷文化』を継承し、日々の学校生活の中で語り合い、今後も新たな『修猷文化』を創造し続けてほしいと語った。

記念講演は、2008年北京五輪セーリング49er級日本代表で、本校平成4年卒業の石橋顕氏にお越しいただき、「可能

性を信じて」と題してご講演をいただいた。

講演ではまず、ご自身の経歴や競技人生を振り返られた。修猷館高校に入学してからヨットを始め、高2のインターハイで県大会2位となったが、選手登録の不備で、九州大会に出られなくなった。この経験から全国大会出場のみならず「日本一になる」ことを心に誓い、この目標のために猛練習するようになった。高3のインターハイでは、全国大会に出場したが、現地で思わぬ怪我を負って4位に終わった。しかし、その1か月後の石川国体では優勝し、日本一になるという目標を達成することができた。

その後、大学に進学してヨットを続け、大学卒業後は、一般企業に就職し、平日に仕事をしながら休日にヨットをする生活を約3年間続けた。世界選手権に出場した折に、海外の選手たちが人生を賭けてヨットに取り組んでいる姿に触発され、「オリンピックに出たい、そして世界一になりたい。人生のすべてを賭けてチャレンジしたい」と思うようになり、会社を退職してヨットに専念することになった。しかしながら、2004年のアテネ五輪の国内選考会では



代表選手に選ばれず、ヨットを辞めようとまで考えたが、「ここで辞めたら悔いが残る」と一念発起し、「自分の可能性を信じて、それができればチャレンジできる」と世界各地を転戦した。その資金を調達するために「TEAM BELIEVE」のロゴが入ったTシャツを販売、修猷館の諸先輩・同窓生の絶大な支援もあって、2008年、ついに念願の北京オリンピックへの出場を果たした。

最後に、石橋氏は後輩たちへ向けて「日々の生活の中で小さな勝負にこだわらず、自分の思考の癖（習慣）に気づき、プラスの発想に変えることが大切。」「挫折や失敗こそ成長の源で、失敗は成功に向かうためのプロセスに過ぎない。失敗を恐れず、自分の可能性を信じてチャレンジしてほしい。」と熱いメッセージで講演を締めくくられた。

文化講演会「ぼくが15で社長になった理由」

ニュート株式会社 代表取締役社長

家 本 賢太郎 氏

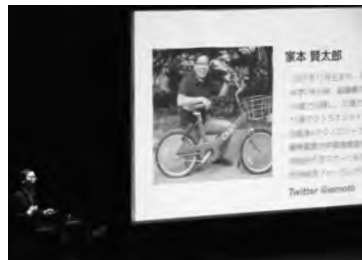
11月19日（金）本校講堂にて「文化講演会」が開催された。

〈内容要約〉

本校の秋の恒例行事となっている文化講演会は、各界で活躍されている方からご講演をいただくことで、修猷生の文化的素養を高め、その志を確たるものにする貴重な機会となっている。ニュート株式会社の代表取締役社長の家本賢太郎さんをお招きし、「ぼくが15で社長になった理由」という演題でご講演いただいた。

家本賢太郎さんは、中学校の2年に在学中、脳腫瘍の除去手術を受けられたが後遺症で車椅子生活となられた。入院中パソコンに親しめたことがきっかけで、インターネットで仕事をすることを決断された。中学校卒業後、15歳で起業、レンタルサーバ事業を始めた。早稲田大学大学院修了後は、内閣府の男女共同参画会議を長い間務められた他、現在、福岡では自転車シェアリング（レンタル）サービスの「チャリチャリ」を展開されている。

家本さんは、生徒たちに伝えたいこととして、「世界を知るために自分の街を知ること」「世界は小さくなっており、世界を自分の目で見ること」「好きなことでもいいこと」「人は人、自分は自分と考えること」について自分の経験を交えて語られた。講演会後の談話会では、集まった40名を超える生徒たちからの多くの質問にも快く答えていただいた。



令和三年 部活動

事業部 (4)

執行部・議長団・応援部・新聞部

文化部 (19)

文芸部・演劇部・映画制作部・物理部・化学部・生物研究部・数学研究部・写真部・コーラス部・吹奏楽部・美術部・書道部・ESS部・JRC部・華道部・茶道部・パソコン部・ディベート部・放送部

体育部 (16)

弓道部・剣道部・柔道部・水泳部・山岳部・陸上部・野球部・ソフトテニス部 (男子) (女子)・テニス部 (男子) (女子)・卓球部・バスケットボール部・バレーボール部 (男子) (女子)・ラグビー部・サッカー部・ヨット部・バドミントン部

総合部 (1)

文体総合部

現在40のクラブの下で現役生は元気に活動しています。各クラブ活動については修猷館HP「部活動紹介」をご覧ください。

修猷館生の活躍

令和3年8月に開催されたインターハイ2021登山競技に男女揃っての出場を果たし、女子10位、男子12位と、これまでに最高の順位を更新しました。



コロナ禍にあつて、どの部活動も健闘しました。中でも、新聞・書道・ディベート・放送・柔道・山岳 (男女)・ヨット・文体総合 (囲碁・フィギュア・アイスホッケー (個人)) が全国大会への出場を果たしています。

同窓会の歩み

- 一・一四 役員会・学年幹事会合同新年会（中止）
臨時役員会
- ※宮崎修猷会（中止）
- 二・一〇 菁莪発送
- 一九 修猷協会理事会
- ※鹿児島修猷会（中止）
- ※大分修猷会（中止）
- 三・五 同窓会入会式（川崎会長・大賀幹事長・田中事務局長 他二名）
- 六 第七十三回卒業式（三九二名 男子二〇二名 女子一九〇名 川崎会長・大賀幹事長・田中事務局長）
- 四・六 令和二年度会計監査
入学式 四〇二名（男子二一〇名 女子一九二名 川崎会長・大賀幹事長）
- 五・一三 学年幹事会（令和二年度会計決算承認 書面開催）
- 二八 修猷館創立記念講演
卒業生キャリアアセミナー（WEB配信 期間限定）
- 二九 同窓会総会（WEB開催）
- 三〇 OBゴルフ大会（中止）

- 六・一一 東京修猷会（WEB開催 東京・福岡 岡本館長・津田会長・西高辻副会長・谷川副会長・大賀幹事長・中本事務局長）
- 二八 修猷協会理事会・評議員会
- ※中京修猷会（中止）
- ※中国四国修猷会（中止）
- ※生徒海外研修（中止）
- 七 大運動会（実施せず）
- 九・四 大運動会伝承会
- 一八 大運動会伝承会
- 一一・一一 応援歌伝承会
- 二〇 近畿修猷会（総会のみ 大阪倶楽部四階ホール 会場とオンラインで開催）
- ※沖縄修猷会（中止）
- ※熊本修猷会（中止）
- 一二・一一 東北修猷会（WEBで開催 総会のみ）
- 二〇 佐賀修猷会（グラデはがくれ 岡本館長・糸山事務局次長）
- ※長崎修猷会（中止）
- 毎月第2木曜日役員会
（5月・8月・12月を除く）
1月は臨時役員会 6月・9月の役員会は書面開催
名簿管理・菁莪編集・ホームページ運営・
歴史伝統伝承・資料館運営 各委員会 適宜開催

役員会・学年幹事会報告

一月一四日（臨時役員会）

- (1) 学校から 令和2年10月の研修旅行について
非常事態宣言下の対応について

(2) 支部総会報告

- ・近畿修猷会 11月14日 会場とオンラインで開催

- (3) 支部役員との意見交換会

- ・熊本 11月26日

- ・中国四国・長崎は中止

(4) 各種委員会から

- ・歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会（12月17日）の報告

- ・菁莪編集委員会 「菁莪」の発行

(5) 同窓会総会について

- ・幹事学年からの経過報告

- ・オンラインでの開催（18時半から2時間程度）

- ・ライブ配信と事前録画を交えて開催

- ・学年からの協力金と新聞広告を考えている。

審議事項

(1) 同窓会総会について

- ・総会ホームページの作成をすぐに行い、3月初旬には申し込みやロゲインできるようにしたい。

二月一〇日（役員会 ZOOMによるオンライン開催）

- (1) 学校から 部活動報告

雑誌「修猷」が完成

(2) 各種委員会から

- ・名簿管理委員会 定時制の名簿が完成

- ・菁莪編集委員会 「菁莪」発送

審議事項

- (1) 同窓会総会について 幹事学年からの経過報告

① 運営費用について

- ・運営費用と新聞広告

- ・グッズ制作を検討中

② 新聞広告企画内容について

③ 新聞広告協賛依頼について

④ 参加申込方法について

※令和4年の同窓会総会は、会場開催を前提に準備中

令和4年5月28日（土） 18時～ ホテルオークラを予定

三月一日（役員会）

(1) 学校から

- (2) 部活動報告 全国大会出場のお祝いについて

- (3) 同窓会入会式について 3月5日（金）

- (4) 卒業式について 3月6日（土）時間を短縮して実施

川崎会長他2名出席

(5) 修猷協合理事会報告

- ・学校への助成金について

審議事項

- (1) 同窓会総会幹事学年からの報告と本部の対応
- ① 2021年総会・懇親会の特設ホームページの案内
- ② 収入について 新聞広告の進捗状況
- (2) 令和4年同窓会総会日程決定
令和4年5月28日(土) 18時～ ホテルオークラ福岡
幹事学年・平成5年卒

四月八日(役員会)

- (1) 学校から 管理職の紹介
入試結果について
入学式 規模を縮小して開催
部活動報告
- (2) 修猷館高校職員の転退職について 同窓会より饒別
- (3) 各種委員会から
・ 名簿管理委員会 名簿発行の収支報告
審議事項
- (1) 令和3年度同窓会総会幹事学年からの報告と本部としての対応
・ 協賛状況について
・ 当日の内容について ライブ配信＋録画配信を予定
- (2) 5月13日開催予定の学年幹事会について
・ 原則学年幹事1名のみ参加で進める予定
・ 事前に資料を配布
- (3) 令和3年度学年幹事会について

五月一四日(学年幹事会 書面決議により会の成立並びに議案は承認)

議事

- (1) 令和2年度事業報告及び収支決算書(案)
- (2) 会計監査報告並びに決算承認の件
- (3) 令和3年度事業計画及び予算(案) 審議並びに承認の件
- (4) 役員選出の件

六月一〇日(役員会 書面開催)

- (1) 学校から 5月28日 創立記念式典・記念講演について
- (2) 学年幹事会報告 書面決議
- (3) 同窓会総会報告
平成4年卒実行委員長よりWEB開催の報告とお礼
- (4) 支部総会報告 中止、佐賀・中国四国は未定
東京 6月11日(金) WEB開催
- (5) 委員会編成について 7月役員会で委員会の委員改編を予定

七月八日(役員会)

- 新役員の紹介 副会長 谷川浩道氏(S47年卒)
常任幹事 鶴田昂彰氏(H16年卒)
PTA会長 稲葉嘉行氏(S63年卒)
- (1) 学校から 大運動会 9月4日に予定
コロナ対策は生徒がガイドラインを作成
 - (2) 支部総会報告
東京 6月11日(金) オンラインで開催

岡本館長、津田会長、西高辻副会長、谷川副会長、大賀幹事長、中本事務局長が同窓会館からの生中継で参加

(3) 修猷協会理事會評議員會報告

(4) 各種委員會から

各種委員會でメンバーの入れ替えを行う

・歴史伝統傳承委員會 応援歌傳承會 11月11日に予定

(5) 令和3年度同窓會總會報告

平成4年卒朋猷會実行委員長より

九月（役員會 書面開催）

(1) 学校から 夏休み後の学校生活について

大運動會 9月4日予定を9月18日に延期

2年生研修旅行について

部活動報告 全國大會出場について

(2) 總會幹事學年引き継ぎについて

平成4年卒から平成5年卒へ

(3) 各種委員會から

・資料館運營委員會

委員會を開催し、今後の重点項目を確認

資料整理のための小委員會を開催

(4) その他

東京パラリンピック柔道66キロ級（視覚障害）に平成30年卒

の瀬戸勇次郎選手が出場、銅メダルを獲得

十月一四日（役員會）

(1) 学校から 運動會について

従来通りには実施できなかったが、傳承會を実施

東京パラリンピック銅メダリストの瀬戸勇次郎選手が生徒に講話

十里遠足 今年は通常通り行う予定

(2) 各種委員會から

・資料館運營委員會 古賀井卿氏の書の寄贈について

(3) その他

① 常任幹事の交代について

昭和42年卒 羽田野氏↓小田展生氏

昭和56年卒 有岡氏↓佐伯拓史氏

② 總會幹事學年引き継ぎ

平成4年卒（朋猷會）↓平成5年卒（GO猷會）

9月12日 引き継ぎ會を実施

③ 瀬戸勇次郎選手（平成30年卒）の表彰について

同窓會から記念品を贈呈。

④ 名簿管理について

同窓會名簿を利用した營業電話が同窓生に入っている事例報告。HPでも注意喚起。

⑤ 支部總會の開催について

・近畿 11月20日（土）予定

・大分 2月19日（土）予定

・熊本 中止

十一月一日（役員会）

(1) 学校から 11月3日 出前授業

11月11日 応援歌伝承会

11月19日 文化講演会（予定）

12月17日 十里踏破遠足（予定）

(2) 支部総会について

・近畿 11月20日（土）会場とオンラインで開催

・沖縄 11月13日（土）総会は中止、ZOOMで懇親会

・東北 12月11日（土）オンラインで開催

・大分 2月19日（土）予定

・熊本 中止

・佐賀・鹿児島は開催は未定

(3) 各種委員会から

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの寄稿依頼

・資料館運営委員会 展示ケースについて

(4) その他

・前福岡県知事の小川洋氏のご逝去にあたり同窓会から弔電

・令和4年の総会の進捗状況について

・役員会 12月は開催なし

・役員・学年幹事合同新年会の開催について

1月13日 アークホテルロイヤル福岡天神にて開催の予定

「勧誘電話にご注意ください」

令和2年5月に同窓会名簿を発行しましたが、その後、同窓会名簿を利用したとみられる勧誘電話の情報が寄せられています。このような勧誘電話とは同窓会は一切関わりありませんのでご注意下さい。

同窓会名簿は同窓生以外には販売しておりません。複製、転売は禁止です。

同窓生の皆さま、名簿の取り扱いにくれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

令和2年度 同窓会会費入金状況

令和2.4.1～令和3.3.31

卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費	卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費
昭 12	77	0	0	0	0	58	251	3	60,000	1	2,000
13	76	0	0	0	0	59	413	0	0	0	0
14	85	0	0	0	0	60	379	3	60,000	0	0
15	93	0	0	0	0	61	394	1	20,000	0	0
16	121	0	0	0	0	62	393	1	20,000	0	0
17	142	0	0	0	0	63	424	0	0	0	0
18	159	0	0	0	0	平 1	369	0	0	0	0
19	126	0	0	0	0	2	405	1	20,000	0	0
20 (5)	131	0	0	0	0	3	424	0	0	0	0
20 (4)	124	0	0	0	0	4	440	0	0	1	2,000
21・22	156	0	0	0	0	5	396	0	0	0	0
23・24	241	0	0	0	0	6	436	0	0	0	0
25	194	0	0	0	0	7	449	0	0	0	0
26	208	0	0	0	0	8	484	0	0	0	0
27	268	0	0	0	0	9	438	0	0	0	0
28	269	0	0	0	0	10	429	0	0	0	0
29	247	0	0	1	2,000	11	432	0	0	0	0
30	253	0	0	0	0	12	394	0	0	0	0
31	243	0	0	0	0	13	389	0	0	0	0
32	261	0	0	1	2,000	14	396	0	0	0	0
33	279	0	0	1	2,000	15	396	0	0	0	0
34	264	1	20,000	9	18,000	16	402	0	0	0	0
35	261	0	0	7	14,000	17	398	0	0	0	0
36	275	1	20,000	8	16,000	18	397	0	0	0	0
37	248	3	60,000	8	16,000	19	390	0	0	0	0
38	235	0	0	7	14,000	20	390	0	0	0	0
39	197	0	0	12	24,000	21	390	0	0	0	0
40	269	0	0	8	16,000	22	390	0	0	0	0
41	327	3	60,000	13	26,000	23	397	0	0	0	0
42	302	0	0	12	24,000	24	393	0	0	0	0
43	329	2	40,000	6	12,000	25	435	0	0	0	0
44	292	3	60,000	8	16,000	26	402	0	0	0	0
45	308	3	60,000	7	14,000	27	399	0	0	0	0
46	269	1	20,000	2	4,000	28	433	0	0	0	0
47	288	1	20,000	4	8,000	29	433	0	0	0	0
48	244	3	60,000	2	4,000	30	398	0	0	0	0
49	282	1	20,000	5	10,000	31	427	0	0	0	0
50	288	1	20,000	7	14,000	令 2	436	0	0	0	0
51	307	2	40,000	8	16,000	合 計	25,610	50	1,000,000	157	314,000
52	241	2	40,000	6	12,000	卒 業 生 会 費 計					1,314,000
53	220	3	60,000	1	2,000	通 信					42,000
54	236	4	80,000	4	8,000	定 時					30,000
55	241	2	40,000	2	4,000	卒業生終身会費年会費合計					1,386,000
56	256	4	80,000	4	8,000	令 3 年 卒 業 生 終 身 会 費					392 7,840,000
57	237	1	20,000	2	4,000	総 合 計					9,226,000

第3章 学年幹事

第9条 学年幹事は全日制各年次3名以内（定時制・通信制は若干名）を選任し、本会に報告する。

第10条 学年幹事は学年幹事会を構成し、その付託事項を処理する。

第4章 会 議

第11条 総会

定期総会は原則として毎年5月30日（母校創立記念日）に会長が招集し、役員の選任・予算・決算・規約改正およびその他の会務報告を行う。

2. 臨時総会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

第12条 学年幹事会

学年幹事会は学年幹事をもって組織し、役員の選任・予算・決算・規約改正、その他会務執行に必要な重要事項を審議決定する。

2. 定期学年幹事会は原則として毎年5月の第2木曜日に会長が招集する。

3. 臨時学年幹事会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

4. 学年幹事会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第13条 役員会

役員会は役員をもって組織し、予算・決算・規約改正案の作成および会務執行に必要な事項を審議し処理する。

2. 会長は随時必要とときにこれを招集し、議長となる。

3. 役員会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第5章 組 織

第14条 委員会

本会は会務執行にあたり、必要な場合に委員会を設置することができる。

第15条 事務局

本会に事務局を置き、事務局長1名、事務局次長1名および事務職員若干名をおくものとする。

第16条 支部

本会は遠隔地の会員との連絡を密にするため、必要な地に支部を置くことができる。

2. 支部の結成は代表者の申し出により、役員会の承認を受ける。

3. 支部の運営は各支部の定めるところとする。

第6章 会計および庶務

第17条 本会の経費は会費および寄付金および運用収入をもって充てる。

第18条 本会の会費は終身会費20,000円、年会費2,000円および特別会費とする。

第19条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第20条 本会は一般財団法人修猷協会の運営管理に關しての権利は相応に保有するものとする。

第7章 補 則

第21条 本会会務の処理に必要な細則は別に定める。

第22条 本会則は昭和43年5月30日より施行する。

昭和49年5月30日一部改正。

昭和53年5月30日一部改正。

昭和55年5月30日一部改正。

昭和59年5月30日一部改正。

平成21年5月30日一部改正。

平成27年5月30日一部改正。

修猷館同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は修猷館同窓会と称する。

第2条 本会は事務局を福岡市早良区西新3-12-14：修猷館同窓会館内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 1) 会員名簿の発行
- 2) 同窓会誌「菁莪」の発行
- 3) 創立記念事業
- 4) その他必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

- 1) 通常会員
 - イ) 福岡県立中学修猷館卒業生
福岡県中学修猷館卒業生
 - ロ) 福岡県立高等学校修猷館卒業生
福岡県立修猷館高等学校卒業生
 - ハ) 上記の学校に在籍した者で入会を希望する者
 - ニ) 福岡県立修猷館高等学校定時制卒業生
 - ホ) 福岡県立修猷館高等学校通信制卒業生
- 2) 特別会員
上記学校の教職員および旧教職員
- 3) 準会員
福岡県立修猷館高等学校在校生

第2章 役 員

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名	副 会 長	若干名	名誉会長	1 名
常任幹事長	1 名	事務局長	1 名	監 事	2 名
常任幹事	全日制各年次	1 名 (40名以内)			
定時制・通信制	若干名				
相 談 役	1 名	顧 問	若干名		

第6条 本会役員の選任は次のとおりとする。

- 1) 会長・副会長および監事は通常会員中より役員会において選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 2) 名誉会長は母校館長とする。
- 3) 常任幹事は、原則として卒業後17～56年次および定時制・通信制会員より選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 4) 常任幹事長は常任幹事中より会長が委嘱する。
- 5) 上記以外の役員は通常会員中より会長が委嘱する。

第7条 役員は次の任にあたる。

- 1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその代理をする。
- 3) 常任幹事長は会長の意を受け、円滑な会務の運営にあたる。
- 4) 事務局長は金銭の収支、会費の徴収、議事録の作成その他本会事務一般にあたる。
- 5) 監事は会計事務を監査する。
- 6) 常任幹事は本会の会務を執行処理する。
- 7) 名誉会長、相談役および顧問は本会の諮問に応じる。

第8条 本会役員の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

修猷館同窓会総会

2022

2022 年度同窓会総会の幹事学年を務めさせて頂く平成 5 年卒
GO 猷会です。

世界の生活様式を一変させた新型コロナウイルスの影響により
この 2 年間は館友の皆様が直接集い、旧交を温める場が奪われ
てしまいました。

このような状況だからこそ、私たち GO 猷会は館友の皆様が直
接エールを交わし、共に前に一步踏み出せるような同窓会の場
を準備したいと考えております。

不透明な状況ではありますが、皆様と直接お会いできることを
願って。GOGO 集友！

会の開催にあたっては、感染防止対策へのご協力等をお願いす
ることになると思われますが、ご理解頂きますよう、よろしく
お願い申し上げます。

2022 年度 修猷館同窓会総会 実行委員会
実行委員長 岩永 知久 (平成 5 年卒 GO 猷会)

2022.5.28(土) 18 時
ホテルオークラ福岡
GOGO 集友

★ OB ゴルフ大会 2022.5.29(日) 福岡カンツリー倶楽部 和白コース



修猷館同窓会誌

菁 莪

発行者 修猷館同窓会

福岡市早良区西新三丁目十二番十四
電話(〇九二) 八二二—〇六六三
FAX(〇九二) 八二二—〇六七二

代表者 津田 純嗣

発行日 令和四年一月三十一日

編集者 菁莪編集委員会

森下七百枝・鞍垣 吉政
小柳 有美・堤 勝也
石田 淳子・石橋 顕
能見 信二・田中 健吾
村上 弘・田元 有紀

印刷 祥文社印刷株式会社